



2023 年度派遣学生による 留学報告会 (カザフスタン・キルギス)



報告書

筑波大学

日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト

2023



目 次

I. 2023 年度 夏季海外研修帰国報告会 p. 3

開 催 日：2023 年 10 月 19 日（木）

1. キルギス日本センター 夏季ロシア語 1 カ月スキルアップコース（キルギス共和国） p. 5

期 間：2023 年 8 月 21 日（月）～9 月 15 日（金）（26 日間）

参加人数：3 名（角濱さくら、森芽衣、高橋舞）

研 修 地：キルギス共和国日本人材開発センター、キルギス国立総合大学（ビシュケク）

2. 交換留学（留学先からの中間報告）

研 修 地：アルファラビ・カザフ国立大学（カザフスタン共和国アルマトイ）

・寺尾優汰（2023 年 3 月～2024 年 3 月） p.14

・池添里彩（2023 年 3 月～2024 年 3 月） p.18

II. 2023 年度 春季海外研修帰国報告会 p. 25

開 催 日：2024 年 4 月 22 日（月）

1. ロシア語・カザフ語短期語学研修（カザフスタン共和国） p. 27

期 間：2024 年 2 月 16 日（金）～3 月 23 日（金）（37 日間）

参加人数：13 名（新川朝日、樋口凜り子、角濱さくら、藤原健人、野村レイナ、高橋蓮、遠藤拓馬、
藁谷そら、渡部孝紀、富田明日紀、岡本みもり、万代晴香、柴田葵）

研 修 地：アルファラビ・カザフ国立大学（アルマトイ）

2. 海外医療視察研修（カザフスタン共和国） p. 38

期 間：2024 年 3 月 10 日（日）～20 日（水）（11 日間）

参加人数：4 名（鈴木萌楓、結城舞、田崎彩名、熊倉緑里）

研 修 地：アルマトイ……カザフ国立医科大学、市立診療病院、アルファラビ・カザフ国立大学
（キャンパス内診療所）、医療カレッジ（薬草植物センター）他

アスタナ……ナザルバエフ大学、小児リハビリセンター、アスタナ医科大学 他

3. 交換留学（帰国報告）

研 修 地：アルファラビ・カザフ国立大学（カザフスタン共和国アルマトイ）

・赤坂幸亮（2023 年 3 月～2024 年 1 月） p.44

・寺尾優汰（2023 年 3 月～2024 年 3 月） p.47

・池添里彩（2023 年 3 月～2024 年 3 月） p.49

III. 資料（ポスター等）

コロナ禍後2年目の海外留学、海外研修の支援を終えて

白山 利信

筑波大学人文社会系教授・NipCA プロジェクト実務責任者

コロナ禍が事実上収束し、今までどおりのキャンパスライフが戻ってきました。コロナ前と後の違いは、コロナ禍で普及したオンライン授業が一部残り、対面授業、オンライン同時双方向の授業、オンラインによるオンデマンド授業の3つ形態が併行して行われるようになったことです。海外の協定校などに半年間、1年間の留学をしたり、海外語学研修に参加したりと、日本人学生の国際的な移動を伴う教育・学習活動も正常化してきました。南極を除く5大陸の、各々が目指す大学で学びを深めています。

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト」が推進する旧ソ連の CIS 諸国、特に中央アジア5カ国（ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、トルクメニスタン、タジキスタン）、コーカサスのアゼルバイジャンとジョージアの7カ国の国際教育支援活動もコロナ前の交流規模に戻りつつあります。昨年の2022年度は、3年ぶりに「海外語学研修ロシア語C（カザフスタン）」（秋学期開講）を再開することができました。2023年度も活動を大幅に増やし、3つの海外研修と交換留学の支援を実施しました。具体的には、「海外語学研修ロシア語B（キルギス）」（キルギス語学習を一部含む。2023.8.21～2023.9.15）、「海外語学研修ロシア語C（カザフスタン）」（カザフ語学習を一部含む。2024.2.16～2024.3.23）、「海外医療視察研修（カザフスタン）」（2024.3.10～2024.3.20）、交換留学（アルファラビ・カザフ国立大学で1年間の短期留学）を全面的に支援しました。

キルギスもカザフスタンもイスラム教（スンニー派）を主要な宗教的基盤とする国家ですが、社会主義国家であったソ連時代を経験し、1991年に独立した経緯を持っています。現在は、市場主義経済、議会制主義に移行した国となっています。両国ともに、中央アジアの文化形態、社会的な慣習や通念、遊牧民族の伝統など、複数の文化的基層を有し、かつそれぞれの独自の民族的、国家的・社会的な価値観に根ざした国づくりを進めています。その意味で、人々のものの見方・感じ方・考え方、生活習慣、伝統や文化などが日本人とは大きく異なります。今回も本報告書に海外語学研修、海外医療視察研修に参加した学生たち、1年間のカザフスタンでの留学生活を終えた学生たちが体験した内容が収められています。発表したどの学生も日本との違い、日本人との違いに目を向け、良い点や悪い点などを含めて、新たに発見したこと、気づいたこと、また再確認したことをストレートに伝えています。

大学に入るまではほとんど知らなかったカザフスタンやキルギスという中央アジアの世界を学生たち自身の五感をフルに使って、楽しみ、もがき、苦しみ、そして日本の生活だけでは目に見えなかった多くのことに気づきながら、自身の価値観などを客体視し、自分自身の成長を実感している様子が手に取るようにわかります。筑波大学という良き教育環境の中で、こうしてNipCAプロジェクトの支援を受けて国際経験を積んだ学生たちが、そこで得た多種多様な知見や総合的な人間力を今後のキャリアに活かして、日本と世界で大いに活躍してもらいたいと願うばかりです。

最後に、日頃から筑波大学NipCAプロジェクトを温かく見守り支えてくださっている公益財団法人の笹川陽平会長、森祐次常務理事、有川孝国際事業部長、勝俣創介国際事業部チームリーダー、松尾雅子さま、日本・中央アジア友好財団（JACAFA）のヴルボスキ京子会長に対して、衷心より厚く御礼を申し上げます。

中央アジア（キルギス）帰国報告会 中央アジア・コーカサス等交換留学 （語学研修を含む）説明会

キルギスにおける海外語語学研修（ロシア語・キルギス語）を修了した3名による帰国報告に加え、CiCでアルファラビ・カザフ国立大学に現在留学中の学生2名とZoomで繋ぎ、現地から生の声を伝えてもらいます。

中央アジアやロシア語圏の文化、海外研修などに
関心のある方、是非お気軽にご来聴ください。

日時：令和5年10月19日（木）18:00~19:30
場所：スチューデント・コモンズ（1A棟203）



タイムテーブル：

18:00~18:03 開会

【帰国報告の部】キルギス（KRJC、キルギス総合大学）

18:03~18:13 角濱さくらさん（人文・文化学群人文学類2年）

18:13~18:23 森芽衣さん（生命環境学群生物資源学類4年）

18:23~18:33 高橋舞さん（人文・文化学群人文学類4年）

18:33~18:48 質疑応答・コメント

【留学説明の部（オンライン）】カザフスタン（アルファラビ・カザフ国立大学）

18:50~19:00 寺尾優汰さん（人文・文化学群比較文化学類4年）

19:00~19:10 池添里彩さん（人文・文化学群人文学類3年）

19:10~19:25 質疑応答・コメント

19:25~19:28 令和5年度カザフスタン海外研修の概要説明、NipCAオフィス案内

19:28~19:30 閉会

Zoom事前登録



<問合せ> 筑波大学「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト(NipCA)」
事務室：共同研究棟A203

tel：029-853-4251 / e-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp



2023 年度 夏季海外研修（キルギス）帰国報告会 中央アジア・コーカサス等交換留学（語学研修を含む）説明会

筑波大学 日本財団「中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」では、中央アジア・コーカサス等からの留学生支援の他、筑波大学の学生が当該諸国へ留学する際のサポートも行っています。今回は、キルギスにおける海外語学研修（ロシア語・キルギス語）を修了した3名による帰国報告に加え、キャンパスインキャンパス（CiC）でアルファラビ・カザフ国立大学に現在留学中の学生2名と Zoom で繋ぎ、現地から生の声を伝えてもらいました。

- 日 時：2023 年 10 月 19 日（木）18:00~19:30
- 会 場：スチューデント・コモンズ（1A 棟 203）
- プログラム：18:00 ～ 18:03 開会挨拶（臼山利信教授）

【帰国報告の部】

キルギス日本センター 夏季ロシア語 1 カ月スキルアップコース（キルギス共和国）

- 18:03 ～ 18:13 角濱さくら 人文・文化学群人文学類 2 年
- 18:13 ～ 18:23 森芽衣 生命環境学群生物資源学類 4 年
- 18:23 ～ 18:33 高橋舞 人文・文化学群人文学類 4 年
- 18:33 ～ 18:48 質疑応答・コメント

【留学説明の部（オンライン）】

交換留学（アルファラビ・カザフ国立大学）

- 18:50 ～ 19:00 寺尾優汰 人文・文化学群比較文化学類 4 年
- 19:00 ～ 19:10 池添里彩 人文・文化学群人文学類 3 年
- 19:10 ～ 19:25 質疑応答・コメント

- 19:25 ～ 19:28 2023 年度春季海外研修（カザフスタン）概要説明・NipCA オフィス案内
- 19:28 ～ 19:30 閉会挨拶（学生交流課 五十嵐千恵子課長）

梶山 ただ今より、中央アジア帰国報告会と中央アジア・コーカサス等交換留学説明会を兼ねた報告会を始めます。本日の司会を務めます、NipCA プロジェクトの梶山と申します。

学生の報告に入る前に、まず、本学の中央アジア責任者である白山先生より、ごあいさつを頂きたいと思えます。

白山 Добрый вечер。皆さん、こんばんは。お忙しいところご参集くださいまして、ありがとうございます。

今日は、3月からカザフスタンのカザフ国立大学の留学中の学生、それから8月・9月にキルギス共和国にロシア語・キルギス語の語学研修に参加した学生、合計5名の筑波大学生による報告会となっています。面白い報告が数多く聞けると期待しています。特にカザフ留学中の3名が、留学・研修に行く前と帰ってきた後の変化に私は注目したいと思っています。

まず、今回交換留学や語学研修に参加した学生の皆さんは、ロシア語やそれが使用されている社会や文化などに関する知識を含めた、自分自身にとってたくさんの新しいものを吸収したと思います。例えば、学業の他に、ホームステイであったり、自分で旅行したり、映画を見に行ったり、劇場に行ったり、買い物をしたり、友だちと遊んだり、いろいろな活動をしたと思います。そうした経験が学生たちの人間形成、成長にどれほど大きな影響を与えているのか。それを、今日の皆さんの報告で確認できればと願っています。

私自身も学生時代に留学した人間ですが、留学や研修というのは自分の未来をつくる貴重な機会だと思っています。私は、留学が人生を変えました。留学の結果、専門を変え、大学院に進学し、研究者を目指すことになりました。もし留学していなければ、教員として、この筑波大学にいなかったと思います。おそらく普通のサラリーマンとして生活していたでしょう。海外で学ぶ、生きるということは、本当に学生たちの人生にとって大きな機会、転機になる可能性があると思います。交換留学や語学研修で学生たちが何を学び取り、何を感じたか、発表内容が楽しみです。これから留学を考えている、今日来てくださった学生その他の教職員の皆さんも、どうか留学や語学研修の醍醐味を感じ取っていただきたいと思えます。

梶山 白山先生、ありがとうございます。本日の報告会では、前半は2023年8月から9月にキルギスに語学留学した3名の学生にこの場で対面の形で報告してもらって、後半は、カザフスタンに留学中の学生2人に

オンラインで現在の生活について報告してもらおうと考えています。

では、まず帰国報告の部です。最初の報告者は、人文・文化学群人文学類2年生の角濱さくらさんです。角濱さん、お願いします。



角濱 人文学類2年の角濱さくらです。プレゼン資料をロシア語で作ってきたので、ロシア語で発表してもいいですか。スライドは日本語、発表はロシア語で行わせていただきます。(以下、ロシア語からの日本語訳)

はじめに今回のキルギスでの語学研修の主な内容についてお話しします。場所は、キルギスの首都のビシュケクで行われました。授業は、ビシュケク市内にあるKRJC (JICAのキルギス日本人材開発センター)のオフィス内でロシア語全58時間、キルギス語全8時間で1日5時間の授業がありました。授業は基本的にロシア語で行われました。その他に3週間のホームステイとビシュケク市内のエクスカッションや日本語を勉強している学校への訪問もありました。またオブションツアーとしてイシクルへのツアーも参加しました。

次に私がこの研修で興味・関心を抱いた点や特に驚いた点について3つ紹介します。

1つ目は、博物館についてです。キルギスの博物館は、基本的に解説パネルや展示の言語表記はロシア語とキルギス語が中心で英語の言語表記はとても少ないです。国立博物館のように大きな博物館やイシクル湖のような

博物館

- ・言語表記
 - ・ロシア語・キルギス語中心
 - ・英語解説が少ない



国立歴史博物館

キルギスの民族性を伝える展示
 日本には歴史を主体とした博物館はあるが日本人としての民族を主体に展示を行っている博物館はない

道路・交通事情




- ・バスでクレジットカードが使用できる
- ・町中でも道路が未舗装のところも多い
- ・免許は自動車学校に行かなくても買うことができる
- ・日本車や韓国産の車が多い

一ホテルからKRJC（授業する施設）までの道路
このブロックを渡ってスイカ割りができる

トイレ

- ・トイレトペーパーは流さずにゴミ箱に捨てる
- ・使用にお金のかかるトイレがある
- ・トイレの便器の中にゴミが捨ててあるところがある
- ・屋根や戸がないトイレも




屋根と戸の青空トイレ
開放的な気分が味わえる →

まとめ・感想

- ・自分たちの民族意識や文化を尊重していた
- ・言語の運用・使用の仕方が興味深かった
- ・インフラの整備への課題



スーパーの乳製品売り場→
種類や品数が豊富

- ・日本で生活しているだけでは気づかない文化や生活面を知ることができた
- ・自分が当たり前だと思っていることが必ずしもそうではないことに改めて気づかされた

人気のある観光地でなければ英語表記を目にする機会はめったにありません。日本では博物館や観光地では基本的に日本語と英語、場所によっては中国語・韓国語も存在するため、英語のない表記にはギャップを感じました。またキルギスの博物館でもう一つ興味深いと感じた点は自身の民族や国家について紹介する展示があることです。日本には歴史を主体とする博物館や展示は多く存在しますが、「日本人」としての民族や国民性、日本国家そのものに対する展示を行っている博物館はありません。そのためこのように自分たちの民族や国家についてメインで展示している点は日本ではみられない事に加え、キルギス人が自分たちの民族や文化・国家を尊重している点が博物館の展示手法からも分かって興味深く感じました。

2つ目は、キルギスにおけるトイレ事情です。キルギスのトイレは水洗も存在しますが、水洗であろうがなかろうがトイレトペーパーは流さずトイレ内のゴミ箱に捨てるのが一般的です。また場所によってはトイレを使用するためにお金がかかるところもあります。さらにトイレの便器や流しレバー等が無く、床に穴を開けただけの場所に用を足すトイレもあります。そのようなトイレは穴の下にゴミが不法に捨てられている場所もありました。また屋根や戸が無く壁の仕切りだけのトイレもありました。驚いたことはそのようなトイレが郊外や交通の便が悪いところなどではなく、観光地や市内にも存在していました。日本では観光地化する際はトイレを整備したり観光地は景観を意識してトイレを設置したりするほ

どであるため観光地や市内でもそのようなトイレが存在することに驚きを感じました。

3つ目は、道路・交通事情についてです。ビシュケク市内に地下鉄は存在しませんが、バスやマルシルートカ（細かな乗降地点と走行ルートを持つ小型乗合バス）を利用して移動することができます。バスはクレジットカードを使用することができます。また Yandex というアプリでバスの走行状況を確認できたり、タクシーを手配したりすることができます。また使用されている車は、韓国車や日本車が多くみられました。一方、キルギスで免許は教習所に行かなくても購入できると言われていたため、交通マナーが守られておらず道路を渡るときは非常に注意するようにと声をかけられました。また首都であるにも関わらず未舗装の道路も多いのが印象的でした。私が KRJC へ行く通学路も未舗装の道路や、ブロックが積み上げられたままの場所、マンホールの蓋がない場所など整備が追いついていない場所が見受けられ、先ほどのトイレ事情も踏まえてインフラの整備にはまだまだ課題があるのだと感じました。

まとめと感想です。今回の研修で感じた事は大きく3つあります。1つ目は博物館の例からも分かったようにキルギス人は彼らの民族意識や文化を大切にしていたことです。2つ目は言語の運用・使用の仕方が非常に興味深かったこと。3つ目はインフラへの課題がまだまだ存在していることです。このように今回の研修に参加して日本で生活しているだけでは気づかない文化や生活面を



知ることができました。日本でいくらロシア語をやっても今回のキルギスの研修に参加しなければこうやって文化の差異や異文化の生活に触れることはなかったと思います。それと同時に日本で当たり前であった事が必ずしもそうでないことに改めて気づかされました。生活面はもちろんのこと文化や思想・考え方でも異なるということが分かりました。

最後に今後の課題です。今回の研修に参加してロシア語の語彙力がないことを実感しました。また私のホストファミリーはキルギス語を話しませんが、街ではキルギス語とロシア語を併用する場面を多く見かけロシア語だけでなくキルギス語も勉強する必要があると感じました。そのため今後はロシア語の語彙を増やすこととキルギス語をさらに勉強していきたいと思いました。また今回の研修で中央アジアにおける遺跡の整備・管理や博物館の展示についても興味をもったので調べていきたいと思いました。以上で発表を終わります。ありがとうございました。

梶山 角濱さん、ありがとうございます。質問、コメントは、3人の報告が終わってからまとめて受け付けたいと思います。では、次は、生命環境学群生物資源学類4年生の森芽為さん、お願いします。

森 生命環境学群生物資源学類4年の森芽為です。角濱さんと同じ日程で行ってきました。ロシア語クラスとキルギス語サバイバルクラスというのが最初に3コマ用意されていて、そこで会話のきっかけになるようなあ

いさつなどを学んで、研修がスタートしました。また、研修中、語学の勉強以外のプログラムが豊富に用意されていて、最初はスケジュール的にかなり詰め詰めでした。26日間の語学研修期間中に、例えば、現地の学生と話したり、JICAのオフィスに行って技術協力・支援などのお話を聞かせていただいたり、国連に勤めている日本人職員の方とお話をさせていただいたりというプログラムをかなり組んでいただいていた。

プログラムの費用についてです。航空券が往復で16万円程度で、成田ー韓国仁川（インチョン）ーアルマティー最後にキルギスのマナス国際空港という、乗り換え等いろいろ含めて12時間くらいかかる経路で行ってきました。あとプログラム参加費が25万円ほどかかり、計40万円くらいで1カ月研修に参加することができました。今回はまだ入っていないのですが、筑波大学からの補助金が、うまくいくと10万円くらい入るので、最終的に、マイナス10万円くらいでしょうか。



研修の特色であったり、ほかの研修と違ったり、ここはポイントだと思う点は、まず、研修前も研修中も日本語での手厚いサポートがありました。キルギス日本センターのスタッフの方にもいつでも日本語で対応していただけです。留学や研修となると、行く前にもいろいろ提出書類等あると思うのですが、そちらも筑波大学NipCAプロジェクトオフィスのスタッフや先生方に助けていただいて、そこまで困ったこともなく今回の研修

費用

航空券 16万円程度
プログラム参加費 25万円程度 (160円/1USD)

40万円程度

(要件を満たせばここに補助が入る)

授業日一日の流れ

7:30 起床
8:30ごろ 家をでる
9:30~12:30午前授業
12:30~14:00昼食休憩 (近くのカフェスーバーへ)
14:00~16:00午後授業
17:00ごろ 家に到着
(祖父母・親せき宅での食事会、公園を散歩・遊ぶ、宿題など)
23:00ごろ 就寝

研修の特色

- ・研修前・研修中ともに、日本語での手厚いサポート
- ・ホームステイ
- ・他大学の学生との交流
(今回の参加校: 東京外語大、京都外語大、神戸市外語大、金沢、富山、早稲田、筑波)

に参加できたかなと思います。私は海外に行くのが初めてだったのですが、特に問題もなく行って帰ってくることができました。

それから、ホームステイですね。先ほどあったとおり26日間で20日間、ホームステイのお宅に泊まりました。今回の場合は、一家庭に1人行かせていただきました。ホームステイ宅に必ず、我々と同じ年齢くらいか、もしくは小学生、中学生くらいの年代の子どもがいるように配慮していただいていた、ご両親だけでなく、年齢が近いホストファミリーのメンバーともかなりコミュニケーションが取れるようにされていました。

あとは研修の形態が特徴的だったと思います。今回は筑波大学から3人研修に参加したのですが、ほか19名は他大学からの参加でした。ここに挙げたような大学から来ていて、学年も、1年生がちょっと多めでしたが、2、3、4年生、あと院生もいて、かなりいろいろな学生と交流することができました。

白山 授業を受けた場所は、協定大学のキルギス国立総合大学ですか。

森 はい。総合大学内にある、キルギス日本センターのオフィスの教室で授業を受講しました。

白山 キルギス日本センターというのは、JICA（国際協力機構）の組織ですね。

森 そうです。今回の研修はそちらが主催でした。授業の日の一日の流れを説明します。私の場合、7時半頃に起きて、8時半頃に家を出ました。9時半から午前

の授業が始まりますので、徒歩通学だった私は、歩いてバス停まで行って、バス停から電気で動くトロリーバスに乗って、また歩いて、40分くらいかけて毎日通学していました。帰りも同じルートなのですが、帰りはトロリーバスが全然来ないので、かなりかかりました。

午前中授業を受けて、昼休憩は1時間半ほどあります。日本と比較してもカフェ等が多いので、毎日違うカフェに行って、おいしいものを食べていました。午後の授業を4時までして、そこから帰って、5時頃家に着きます。その後、日によっていろいろありますが、結構ホストファミリーの方が祖父母や親戚のお宅に連れていってくださって、毎日どこかに行ってごちそうを頂いていました。

それから公園を3時間くらい、長い散歩をよくしました。夜8時に小学生の子どもたちと一緒に外に出て、ひたすら歩いて、公園でブランコをこいで、23時くらいに家に帰ってきて、シャワーを浴びて、やっと寝するという感じです。私以外にも、結構そういうことをしてクタクタになって朝学校に行く、みたいな方がたくさんいました。「宿題など」と書いてありますが、みんな、宿題をする時間をつくるのに苦労しているようでした。日程の詰まり具合はそんな感じです。最初のほうは、政府の要人になったみたいな気分でした。

使用言語についてです。先ほどの角濱さんのスライドにもありましたが、私の場合は、ホームステイ先はロシア語と、ホストマザーと一番上のお姉さんが英語を使え

使用言語

ホームステイ先: ロシア語、英語
ホームステイ先の祖父母宅: キルギス語

現在の大学生くらいまでの年齢: ロシア語メイン

(発表者の体感、滞在先の首都ビシュケクでは)

たので、コミュニケーションで困ったときは英語を使っていました。あとは、先ほど祖父母宅等に連れて行ってくださるという話をしたのですが、そういうところでは基本的にみんなキルギス語を話していました。

話している時は、ホームステイ先の子どもはかなりロシア語がメインでした。キルギス語も一応学校では学んでいて、おばあさんとちょっと会話したりはできるけれども、キルギス語でそこまで何でも話せるレベルには到底及びませんでした。これは首都のビシュケクでの話なので、ほかの都市に行くとなんぶん違うと思います。

カリフォルニアロール、焼きラグマン



ここからは写真しかないのですが、印象に残った食べ物などがあります。カフェなどに行くと、寿司や、東南アジアの料理、ラーメンなども結構ありました。寿司はロール系が多いのと、色鮮やかなのと、チーズがかかっているものなど、それから焼きラグマンは私が好きだから載せたのですが、いろいろな種類がありました。

白山 日本の焼きうどんと味は違いましたか。

森 麺の小麦粉が、焼きうどんより詰まっている感じがしました。

смешарики



これは、『スメシャリキ』（ロシアの子ども向け人気アニメキャラクター）が授業で出てきて、嬉しくなって写真を撮って載せました。『スメシャリキ』が描いてある乳製品がどこにでも売っていたり、道に落書きがあったりします。子どもたちに聞いても、「私、ウサギが好き

マス



街



なの」などと教えてくれて、見て見てって感じでした。

あとは、キルギスは内陸国で、湖はありますが、魚が本当になくて、日々の食事でも肉がメインでした。マスがたまにいて、スーパーの生け簀で見られました。

これは、先ほど出ていましたが、いつタイルを貼り直すのかわからない道です。

飲み物については、一番左の「Legend」という銘柄の水がキルギスで一番飲まれています。ほかの水をスーパーで買おうとすると、「こちらのほうがおいしいから」といってこちらの水を買わされますが、違いは分かりませんでした。あとは、パッションフルーツ味のファンタと、一番右がマキシムという酸っぱい飲料です。これは道端でよく売っていて、何も言っていないのにホストファミリーの人がいつも買ってくれました。かなり強烈な味ですが、最後には慣れることができました。また飲みたいです。

宗教がイスラム教（スンニー派）なのですが、私のホームステイ先では誰もお酒を飲んでいなくて、1カ月禁酒を強いられ、やっと最後にホテル生活になったときに買って、嬉しくなって撮った写真です。ビシュケクコニャックです。

白山 真ん中左側の写真ですね。

森 はい。先ほどのコニャックです。

あとは、これは何の写真だという話なのですが、左の赤いのは「BFC」と書いてあります。KFCのあれなのですが、Bというのはビシュケクです。要するに、ビシュケ

飲料



ありがとうございました



クフライドチキンです。安くて、おいしくてかなりよかったです。

キルギスにはスタバはないのですが、KFC だけやたらとあって、向かいの建物にもあるみたいに、たくさんありました。日本の KFC と、またちょっと違います。BFC ですというふうに言っていました。

『チェブラーシカ』（ソヴィエト時代から続く人気キャラクター）は、これはパチモン（偽造品）なのですが、意外とロード下の露店でも売っています。ただ、大体全部何かが足りなかったりして、正規品を見つけることは、なかなかできませんでした。本屋に正規品の本はありましたが、人形はあまりなかったですね。バザールに行っても、中国製の、明らかに模倣品のようなものがありました。見たことのあるキャラクターのものだったり。写真はこれぐらいです。

それから、行って何が変わったかという話ですが、私の場合は、ロシア語の授業を1年間受けて、今2年目の授業を受けているという学習状況で行きました。ただ、私は今4年生なのですが、1年目を受けたのが1年生のときだったので、かなり抜け落ちていて、今回1カ月行ったことでそこをたたき直すことができました。前期は若干苦しみながら2年目のロシア語の授業に行っていたのですが、今は毎週楽しく金曜日のロシア語の授業に行けています。

私みたいなレベルで行くと、1カ月行ったらそのような感じかなと思います。結構話せる人だと、1カ月で結

構コミュニケーションが取れるようになることが分かったと言っている参加学生もいました。これでおしまいです。ありがとうございました。

梶山 森さん、ありがとうございます。次は、人文・文化学群人文学類4年生の高橋舞さんです。では、お願いします。

キルギス語学研修報告

人文学類4年 高橋舞

OUTLINE

- | | |
|------|-----------|
| ① 文化 | ④ 都市・環境 |
| ② 言語 | ⑤ 日本との関係性 |
| ③ 食事 | ⑥ 研修成果 |

高橋 人文4年の高橋舞です。私からは、このようなアウトラインで広く浅く話していこうと思います

まず、文化については、ユルタという、動物の毛や木だけでできている自然物のテント（フェルト製）が有名です。国旗の黄色いマークは、ユルタの天井をモチーフにしているそうです。

続いて、伝統衣装についてです。女性はこういうきらびやかな感じの衣装で、男性だと、こういうクニャクニャした模様の帽子をかぶっているのをよく見ました。キルギスは、この模様もヤギの角をモチーフにしている



こういう肉に米や麺などいろいろ混ぜたような料理がたくさんありました。卵などもたくさん売っています。ケーキやチョコがおいしくて安かったです。あとは、チーズが非常にいろいろな種類がありました。焼きラグマンがとてもおいしかったです。

都市・環境については、ビシュケク市内はショッピングモール、ミュージアム、博物館や、とても広くて大きな、きれいな公園がたくさんあって、非常に発展した感じでした。つくばより発展していると思います。

左端の写真は同じビシュケク市内なのですが、道が全然舗装されていなかったり、道に急に大きな穴が現れたり、危ない感じでした。あと、写真はないのですが、車がビュンビュンとかなりの速度で走っていたり、ゴミが分別されずに色々まとめて捨てられていたり、インフラがまだできていないところがありました。

くらい、自然ととても近い文化でした。このワンちゃんが帽子をかぶっているのは、昔、ドッグショーをしたときのものらしいのですが、キルギス人からしたらこれは侮辱だといって、謝罪とか、刑事罰とか、大変なことになるしまったくらい、文化を非常に尊重している国でした。

言語はキルギス語とロシア語が主流ですが、地域によってどちらの言語がよく使われているかは、非常に言語間格差がありました。若い世代だと、英語やキルギス語を学校で勉強して話せるという人がいたのですが、上の世代にいくと、英語とキルギス語は学校で習ったことがないという人もいました。ソ連崩壊後から英語やキルギス語を学校で教えるはじめたと、ホストマザーは言っていました。このように公用語が二極化したり、言語学習の世代間格差があるような、言語使用の問題に関してはいろいろ過渡期にある国でした。

食事に関しては、やはり羊や牛の放牧が盛んなので、



この右端の写真は、山とか、牛が歩いているところが

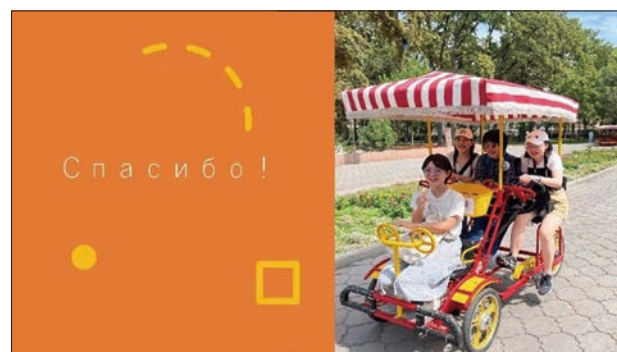
写っていますが、ビシュケクからちょっと離れたらこういう景色ばかりで、本当に発展しているのはビシュケク、都市ぐらいしかなくて、それに伴って出稼ぎが多いというのが問題らしくて、今、都市開発や産業化が進んでいる国のようにです。



JICA の支援を受けて、「One Village One Product (一村一品運動)」というのをそれで進めていて、1つの村で1つの製品を全部手づくりで作るということで、1つ持ってきたんですが、これも確か羊か何かの動物の毛で全部できています。染めるのもオニオンで全部染められているみたいで、本当に1次産業等がとても進められている、発展途上という印象を受けた国でした。都市開発とかに興味がある人にも、ロシア語以外にキルギスもお勧めです。



日本との関係は、「肉好きがキルギスに残って、魚好きが日本に行った」というのを何回も何回も聞かされるんですけど、それくらい向こうの人は日本人のことを兄弟みたいに思っている、本当に親日国家でした。これだけでなく、この隣の着物を着ている人が私のホストファミリーのお姉さんなんですけど、顔も本当に日本人と区別がつかないくらいそっくりで、キルギス日本友好コンサートとか、日本とキルギスの関係性みたいな映画を見せてくれたりして、キルギスは結構親交の深い国でした。



研修成果で私がよかったなと思ったのは、3点で、まず「ロシア語のスキル」は、先ほど森さんが言ってくれたとおり、毎日5時間ぐらいロシア語を聞かされて、家に帰っても街なかでもロシア語しか使えないので、スピーキングとリスニングが、日本にいたらできないくらいたくさんできました。

成果の2つ目は、「背景の異なる人との関わり」です。これは、ホストファミリーとの経験から得られたのですが、私は今4年生で、4月から始めて4カ月か3カ月ぐらいでキルギスに行ったので、当初は不安でした。だから、全然ロシア語が話せないんですけど、何とか意思疎通をしようと思って、「おいしい」「ありがとう」「疲れた」などの単語だけでも何とか伝えたら、とても喜んでくれて、すごく、私に合わせてゆっくりと話してくれたり、「これはこう言うんだよ」という風にすごく優しく教えてくれたので、こういう経験ができたのがとてもよかったです。

3つ目の成果は、「異文化の中で暮らす経験」ができたことです。というのは、文化、食事、言語が全然違う環境で生活するのは本当に難しいんだな、ということを実感できたのが、とても貴重な経験になりました。個人的に、国際事業を手掛けている企業に就職が決まっているので、将来的にそういう国際的な関わり方をしたいと思っていたのですが、そういう時に異文化の人たちとどうやってかわっていくのかという、関わり方を考える機会にもなったのでそこも本当によかったなと思います。

梶山 高橋さん、ありがとうございます。それでは、ちょっと時間が押しているのですが、質疑応答とコメントの時間にしたいと思います。ご質問がある方は、いらっしゃいますか。

白山 学生の皆さん、何でもいいです。聞きたいことはありますか。

松田 僕がカザフスタンに行ったときは冬だったので、果物は、それほどたくさんはなかったのですが、夏のキルギスだとどんな果物があるのですか。

角濱 スイカとメロンです。ブドウも美味しいです。

森 そうですね。野菜系は全部安かったです。

高橋 私も、すごく大きいスイカとメロンを、連日いっぱい食べさせられました。

梶山 ほかの方はいかがでしょうか。

白山 行く前と行った後、до и после ですね。自分はどこが一番変わったと思いますか。それを聞かせてください。

高橋 一番は…なんだろう。ロシア語がうまくなったことです。大きな変化、将来的な変化は…やはり先ほど話した、自分のキャリアプランでどうやって国際的に関わりたいかというときのビジョンが、結構、変わりました。

白山 ありがとうございます。

森 私は生物資源学類で、作物とか、気候が違うので、例えば、中央アジアは日本よりも降水量が少ないので、水の分配をどうするかといったことが日本よりも一層重要になってくるという話はいろいろな場面で聞いたり、自分でも興味があったのですが、実際に行ってみて、本当に雨が1カ月に2日ほどしか降らないとか、そういうことを体感できたのがよかったです。

角濱 私は海外も初めてだし、飛行機に乗るのも初めてだったのですが、1人で行かなくてはいけないといって行ってみたら意外と行けて、海外というのはすごく高い壁があると思っていたのですが、行こうと思えば行けるなと思って、チャレンジ精神が付きしました。

白山 ありがとうございます。

梶山 皆さん、3人とも初海外ですね。初海外がキルギスというのは、カルチャーショックがかなり大きかったと思います。しかも1カ月ですからね。ほかの方はいかがでしょうか。先生方も、コメントなどはありませんか。

白山 生活上、ホストファミリーと暮らす中で、一番困ったことと、よかったことを教えてください。

角濱 よかったことは、今でも連絡を取って、お互い誕

生日などを祝っていることです。困ったことは、自分の生活スタイルと相手の生活スタイルが合わないので、そこに慣れるまでちょっと大変でした。

森 大変だったのは食事ですね。いくらでも出してくれるのですが、チャイ（お茶）とか。さすがに胃袋には限度があるので、食べたいのは食べたいのですが、ちょっとそれは厳しいという、田舎のおばあちゃんのうちに行ったときみたいな感じました。それは逆に良いことでもあります。

それから、食事の前に何かに対して感謝を述べたりというのが回ってくるのですが、それもちょっと、楽しかったですけれども、毎回苦戦というか、毎日固まっていました。

高橋 私も、大変だったのは、料理がものすごくたくさん出てくるんですけど、最初は「おなががいっぱいで」って何と言うのか分からなかったの、止められなくて、最初のほうはすごく大変でした。

よかったのは、本当にホストファミリーが優しくしたこと。私はたまたま通っていた大学の職員の人のうちに住たんですけど、すごく優しい人で、みんなに「ホストファミリー、大当たりだよ」と言われるぐらい、すごく優しくて手厚かったのがよかったです。

梶山 ほかの方はいかがですか。

鳥居 家庭では、家族同士では何語で話されていましたか。ロシア語でしたか。

高橋 うちの基本ロシア語。私は、先ほど話したとおり、最初は全然ロシア語が話せなくて、たまたま私の家庭がグローバルファミリーでみんな英語ができたので、最初は英語で話していて徐々に、本当に簡単な単語だけでもロシア語とか、あとは、キルギス語の授業が少しだけあって、そこで実践フレーズみたいなのをやったので、それだけちょっと入れて混ぜながら話していました。

森 基本的にロシア語を頑張って話して、あとは、おばあさんの家では、授業で習ったキルギス語を全部出しました。結構、国際情勢とか、日本とほかの国、台湾との関係などを聞かれて、そういうのは英語で話しました。

角濱 私は、幸か不幸か英語が話せないでロシア語だけでした。キルギス語をやりたいと言ったら、家でキルギス語を教えてもらいました。

白山 ホストファミリーたちは何語で話していましたか。

森 ファミリーはロシア語です。親戚とかが集った独立記念日のときは、あえてロシア語ではなく、キルギス語を使っていました。

白山 なるほど。面白いですね。

高橋 私の家庭はロシア語がほとんどで、親戚とかおばあさんのおうちに行くとキルギス語をたくさん交ぜながらで、年配の人がキルギス語を結構使う感じだと思います。

梶山 ほかの方、よろしいですか。

参加者 あちらの大学での授業の様子はどうでしたか。日本との違いはありましたか。そこを教えてほしいです。

高橋 授業がやっぱりオールロシア語で、「これをやってください」というのも日本語の補助がなくて、日本と違うなと思ったのは、オールロシア語というところです。あとは、話す・聴くということを非常に重視していて、書いたりするということはほとんどなかったです。

森 私は高橋さんと同じクラスでした。今回、A1 と A2 クラスがあって、A1 クラスだったのですが、会話の授業がすごく多くて、何かを学んだらすぐに全員、文章を作ってみようみたいなのが多かったんです。活用力が付く感じでした。テキストの構成も、習ったらすぐその日に外で使えるような感じだったので、かなり実用的でした。

角濱 私も同じく会話とリスニング重視だったのですが、宿題がちっと、結構多かったんです。私は違うクラスだったのですが、うちのクラスは寝る人が多かったんです。先生が椅子取りゲームや「Молекула (分子)」というゲームを毎時間して、「Не спать! (眠るな!)」とよく言われていました。友達は、それを録音して、リピートさせて、目覚ましにしていました。

梶山 ほかの方、よろしいでしょうか。

山本 最後に一つだけ聴きたいのですが、来年行く後輩の人たちにアドバイスをするとして、出発前にこれをしておけばよかったとか、これを準備しておいたほうがいいということがあったら、ぜひ聞かせてください。

高橋 いい胃腸薬をたくさん持っていったほうが、絶対いいです。22 人ぐらいで行ったのですが、半分以上は病院に行ったし、3 人は入院していたので、いい薬をたくさん持っていったほうがいいと思います。

白山 おそらく油だろうね。食用油の質が違うかもしれません。

高橋 スケジュールがきつくて、みんな体調が悪くなって倒れてしまつて。

森 スケジュールは今度調節して改善しますと言っていたので、たぶん来年はこんなにすさまじいスケジュールにならないと思うので、事前においたほうがいいことは、もう少しキルギス語の学習をして、わずかでもできるようになっておいたらよかったなと思います。

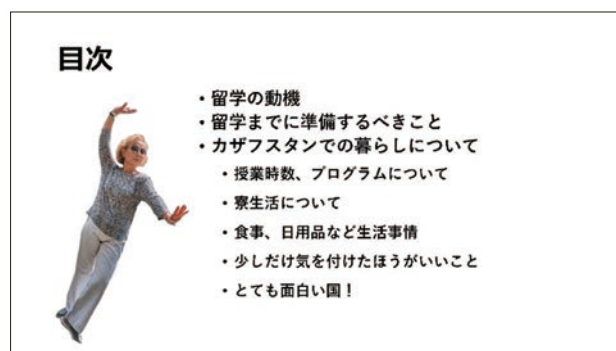
角濱 今回は 1 人で行くということで非常に不安だったので、もう少し早く予定を組んでいれば、誰かと一緒に行けたのではないかなと思います。日程などは、早めにメールでお互いに連絡を取ったほうが、その不安はないからいいかなと思います。

白山 胃腸を壊さないようにする一つの方法としては、僕は最近やったのですが、出発の 1 週間前から整腸剤を少しずつ飲む。要するに、日本人の胃腸は、現地のバクテリアが違うので対応できない人も当然出てきます。おそらく 3 カ月ぐらいビシュケクに住まないといけないと思います。ですので、日本製の良い整腸剤を持っていくことを勧めます。対応できず、どうしようもなかったら現地の病院に行くしかないですね。

梶山 今回、コロナ禍が明けて最初の研修だったので、急ぎょ語学研修の実施が決まったのですが、次回以降はもう少し余裕を持って準備をして募集等できると思います。

時間となりました。また最後に質疑応答の時間を取りますので、オンラインの部に移って、カザフスタンに留学中の筑波大生 2 人に現在の生活について報告してもらおうと思います。まず 1 人目は、人文・文化学群比較文化学類 4 年生の寺尾優汰さん、準備できていますか。それではよろしくお願いします。

寺尾 はい、お願いします。比較文化学類 4 年の寺尾です。3 月からカザフスタンに来て、アルファラビ・カザフ国立大で交換学生として勉強しています。





動機

- 写真のような光景へのあこがれ
- 英語圏ではない社会を知りたかった
- 奨学金で留学のハードルが思ったより下がった

今日はこのような感じで、留学の動機、留学までに準備すべきこと、カザフスタンでの暮らし、授業や寮生活、食事、ちょっと気を付けておいたほうがいいことなどについて話したいと思います。これは先生です。ネットが遅くて聞こえているかどうかわからないのですが、途中で途切れたらすみません。

まず、動機についてです。これは、自分で撮った写真です。たぶん皆さんここで聞かれている短期の研修の方々も一緒に行った、チャリンキャンニオン（アルマトイ州、車で片道約3時間）の時のものですが、こういった光景に小中学生のときから憧れていて、いつか行けたらいいなと思っていたというのが一番大きいところです。来てみたら、こういう光景がありふれていて、全然感動しなくなってきたんですけど…。あと、英語圏ではない、公用語が英語ではない社会を知りたかったということがあります。ほかの国だと、とにかく最初英語で外国人に話そうとなると思うのですが、ここはロシア語でいきなり話し掛けられる。そういったちょっと違った世界というのも知りたかった、そこへの興味があったというところも、動機の一つです。

あと、JASSO の奨学金（月に7万円）を頂けたので、かなり留学の負担が少なくなりました。1年間、生活費もほとんど奨学金で賄えるぐらいの感じで暮らせているので、すごく留学のハードルが低いというところも、このプログラムを見つけたときに「行こう」と決心した理由の一つになっています。

白山 給付型だから、返す必要もないですね。

寺尾 そうですね。給付なので。こんな話をしてもあれなのですが、筑波大学に払う学費が50万円で、奨学金が年額84万円もらえるということで、生活費があるとはいえ、少しプラスになっているぐらいで、「こんなお得でいいの？」という感じです。

準備しておくべきこととしては、これは当然なのですが、とにかくにも語学力ということです。僕は、一応、第二外国語として2年間ロシア語を履修したのですが、

準備しておくべきこと

• とにかくにも語学力

- いい意味での適当さ
- 重さにとらめっこしながら日本の調味料を詰め込む
- RevolutやWiseなど両替手数料の安い金融サービスに登録しておく

その後1年間、間が空いたのと、あまり真面目な履修学生でもなく、ロシア語がしっかりと定着していたわけでもありません。本当に「Здравствуйте!（こんにちは!）」とかあいさつレベルで、生格にちょっと差し掛かったぐらいまでの知識しかなく、こちらに来たときは、授業で何を言っているのかも本当に分かりませんでした。基礎のA1、A2ぐらいのレベルの授業も分からなかったのですが、やっと最近面白くなってきたなという感じです。最初からある程度の基礎語学力があれば、もっと友達もたくさんできるだろうし、友達と話す内容もどんどん深くなって、語学力も飛躍的に伸ばせるのだろうなという後悔がちょっとあります。これはとにかく語学力を留学前に伸ばせるだけ伸ばしてください。

これはちょっとネガティブな感じなのですが、いい意味での適当さに慣れておくということも、この国で暮らすには必要なと感じています。大学の中でも全く連絡が回っていなかったり、部署間でたらい回しにされたり、いろいろなところにひたすら出向き続けるようなこととか。そういうことに耐えられるおらかな心を持っていると、すごく快適に暮らせると思います。逆に、日本での真面目な感じで来てしまうと、いちいちイライラして暮らすに暮らせないというか、精神がもたないなあ…、という感じがして、いい意味での適当さというのを頭に入れておくと、すごく楽に暮らせると思います。

「重さにとらめっこしながら」というのは、手荷物持ち込みの量があると思うのですが、とにかく日本のものがあまりないというか、醤油と味噌は手に入って、たくあんもなぜかあるのですが、みりんとかだし粉とかは、自炊で和食を作るのにどうしても欠かせないようなものが全くないので、みりんとだし粉は絶対に大量に持ち込んだほうがいいと個人的に思っています。

これはちょっと難しいのですが、お金をキャッシングするときなど、いちいちクレジットカードのキャッシングを使っていると手数料が高くなってしまいますので、今はRevolut（英国の外貨両替や国内外への送金などが低額

参考までに



な手数料でできる金融アプリ) や Wise (英国の低額な手数料でオンライン送金をする金融サービス) という便利なサービスがあって、これを登録しておくで快適に過ごせると思います。

参考までに、日本のものがない中でどういう食事をするかということですが、日本のものがこの右端の写真です。ご存じの方も多いと思うのですが、Sumo-San というレストランのトンカツです。イスラム教の国で豚肉が食べられるということだけでもありがたいと思うのですが、この衣の分厚さと肉のバランスは、本当にこれをトンカツと呼んでいいのか。こういうものしか日本食がなく自炊が必須になってくるので、本当に調味料は持ち込むことをお勧めします。

真ん中と左側の写真が、先ほどのキルギスの皆さんも同じような感じだと思うのですが、シャシリク (羊肉の串焼き)、プロフ (中央アジアの炊き込みご飯)、リピョーシカという丸いパンとか、アチチュク (ウズベキスタン発祥のトマト、きゅうり、玉ねぎを使ったサラダ) など、こういった食事をカザフ人はします。贅沢な食事もありますが、こういう食事が伝統的な食事かなと思います。

カザフでの生活 1. 授業

- ロシア語 週17時間 カザフ語 週1時間
カザフスタンの歴史 週1時間 計: 週19時間
- CiCプログラムの一環として英語科目の履修 3時間くらい
(取りたければそれ以上も可能)
- 1クラス最大12人の少人数授業 A1~B2を目指す人までレベル別5クラス?の編成



カザフでの生活についてですが、授業は、ロシア語の授業が週 17 時間くらい、カザフ語が週 1 時間、カザフスタンの歴史も週 1 時間で、クラスによって少し違うかもしれませんが、合計で、週 19 ~ 20 時間くらいの

授業時間かなという感じです。これもクラスで違うのですが、週 5 ~ 6 日、月曜日から土曜日か、月曜日から金曜日という授業スタイルです。大体は午前中に授業が終わると午後は暇なので、先ほどキルギスで 3 時間散歩という話がありましたが、散歩をするなどして、毎日まったりと過ごしています。

このカザフスタンの長期の留学は、たぶん CiC (キャンパスインキャンパス制度は、本学 HP を参照。<https://www.tsukuba.ac.jp/global/action-sgu/cic/>) を通して行うことになると思うので、英語で行う科目の履修も必要になってきます。それが大体、インプットの授業が 1 時間、アウトプットの時間が 2 時間で計 3 時間枠になっているので、一つの授業で 3 時間くらいという履修になります。取りたければ、それ以上、何科目取っても構わないという感じだと思います。

クラスは大体、ひとクラス最大 12 人の少人数の授業で、とても恵まれています。右側が授業風景ですが、このような感じでまったりとしています。今、5 クラスでしょうか。A1 から B2 ぐらいまでのレベルの人たちがそれぞれクラス別で入っています。

衝撃的な写真が出てしまったのですが、これが寮です。長期の交換学生はこちらに入るかなという感じです。今、工事が終わってある程度終わって表面上きれいになったのですが、シャワーは、いまだにシャワーヘッドがなくドバツと水が出てくるタイプです。これはこれで水圧が強くて気持ちがよくて、私は気に入っています。トイレもこんな感じで、こまめに掃除しないとすぐ汚くなり、臭くなります。

2. 寮



- 2 ~ 4 人部屋
- 多数の外国人学生が居住
- 日本人多すぎるかも。。。
- ホームステイ 500 \$
- アパートも 400 ~ 500 \$

部屋は 2 ~ 4 人部屋で、今、この部屋もちょっときれいになったのですが、このような感じの相部屋です。これも入寮するタイミングによって全然違うのですが、今、僕は日本人 3 人の部屋で住んでいます。今、日本人がかなり多くなっていて、ワンフロアに 20 人いて、廊下を出ると日本人がいるみたいな感じなので、これがいい

のか悪いのかちょっと分からないのですが、もしカザフ人と相部屋になりたいという人は、無理やりにでも寮の апай、管理人の方に交渉して相部屋にしてもらおうとか、そういった工夫・調整が必要になってくるかなと思います。もしもっとカザフ人家族に入りたいときは、ホームステイだと 500 ドルくらいでホストファミリーが見つかります。アパートだと 400 ～ 500 ドルの間でそれなりの物件が見つかると思います。



3. 生活事情

- ・スーパー、個人経営の小さな商店多数。慣れてくれば大抵のものはそろえられます。
- ・物価：野菜、果物、交通費激安。外食日本と同じくらい。

生活事情については、この国は生活水準が高く、結構豊かだということもあって、ほとんどのものは手に入ります。日本のもの以外は、大体手に入るのではないのでしょうか。これは магазин（お店）というコンビニのようなものの写真ですけど、こういったお店が、キルギスと同じだと思うのですが、街中のどこにでも存在して、水やサンドイッチなどいろいろなものが買えます。スーパーについても、大手のスーパーが数百メートル間隔であって、ものを買うには困らないので、カザフстанは、とても便利な、本当に暮らしやすい国だと思います。

物価に関しては、野菜や果物、交通費が本当にとにかく安く、果物も旬の物が毎回入れ替わりあって、おいしい果物がたくさん食べられます。スイカが 1 玉 300 円、メロンも 1 玉 400 円、500 円など、本当に安いので、ぜひカザフでたくさん食べてみてください。

ただ外食はとても高くて、日本と同じか、それ以上になる場合もあります。安いドネルケバブ等なら 300 円、400 円で食べられるのですが、ちょっといいレストランやカフェに行くと、すぐ 3,000 テンゲ、4,000 テンゲ、1,000 円ぐらいになってしまうので、日本ぐらいかなという感じです。

次に、少し気を付けたほうがいいことをお伝えしておきたいと思うのですが、最近なのか分からないのですが、思想強めのナショナリストがかなりいます。これはちょっと怖くて、タクシーに乗ったとき、ロシア語で話していると、「なぜカザフ語を話さないんだ。カザフ語

4. 少し気をつけたほうが良いこと

- ・思想強めのナショナリスト
- ・食あたり
- ・薬の飲み合わせ

ともあれ、とても面白い国です

- ・他民族
- ・ロシア文化と中央アジア文化の混在
- ・言語政策、言語の使用

を尊重しろ。カザフ語を大切にしろ」という感じで、かなり威圧的に思想を押し出してくる人がいます。そこで、少しでもカザフ語を勉強しているという姿勢を見せて会話をすると、一気に和みませんが、ロシア語だけで生きていこうというような姿勢を見せ付けると、ちょっと危ないのかなという感じです。最近だと、挨拶するのもどちらにしようかなと悩むこともあるぐらいで、ナショナリストはちょっと怖い部分もあるのかなと感じています。

先ほどの話もあったように、食あたりは、最初の頃はみんな慣れないでゲージしていたので気を付けるのと、薬の飲み合わせですね。日本から持ってくるのもいいのですが、こちらにもたくさん薬はあります。ただ、その薬の成分がかなり日本と違うのか、アナフィラキシーショックを起こしてしまった日本人学生がいました。この 9 月から来た他大学の学生で 3 週間ぐらい入院していたので、そういった薬の成分などもちゃんと見て気を付けることが大事だと思います。そういった怖いところもありますが、基本的に治安は問題ないと思うので、とても面白い国です。この前、友達の家族の結婚式に行ったのですが、親戚なのでおそらくみんな血がつながっているはずなのに、髪の色から目の形から全部違うみたいなの、本当にいろいろな人種の人混ざっているということも面白いですし、その親戚の中でもロシア語を話す家とカザフ語を話す家とあって、結婚式もロシア語でやるのかカザフ語でやるのか、どちらの文化、形式でやるのかという、いろいろなところでの混在というのも垣間見られるところが本当に面白いと思っています。

また、学校の言語政策も最近いろいろ変化しつつあって、そういったところで、言語の使用の変化がどんどん起こっているということも面白いと感じています。まだ若い国でどんどん変化していくのを生で、間近に感じられ、本当に興味深い留学先だなと感じます。アルファラビ・カザフ国立大学を留学先としてぜひ前向きに検討してみてください。ご清聴ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

梶山 寺尾さん、ありがとうございます。では、次は、同じくカザフ国立大学に留学している、人文・文化学群人文学類3年生の池添里彩さん、先ほどまで授業があったそうですね。

カザフスタン 留学体験談

人文学類3年
池添里彩
留学先：カザフ国立大学



池添 今日ちょっと早く終わりました。

梶山 それでは発表をお願いいたします。

白山 元気そうだね。

池添 はい、元気です。先生、お久しぶりです。
Қайырлы кеш! (こんばんは!) では、始めます。

私も今、カザフスタンのカザフ国立大学というところに留学しています。今年の3月から来年の3月まで1年間、留学の予定です。

ロシア語圏への留学が1年生の頃からの夢で、2年生の12月の初め頃に、白山先生に「カザフスタンに1年間の留学に行かないか」と声を掛けていただいて、留学することに決めました。ちょうど中央アジアの国々にも

留学の動機

➤現在の留学先

アル・ファラビカザフ国立大学

➤留学期間

2023年3月17日～2024年3月

- ・ロシア語圏への留学は短期・長期問わず行くことが1年生の頃からの夢だった。
- ・1年間の留学を勧めて下さったのは白山先生。



興味を持っていたので、両親にも相談して、留学に行くことに決めました。それが留学の動機です。

現地での授業は、新学期が9月始まりなので、カザフスタンに来たときは、既にみんな9月から学んでいるクラスに途中からポンと入る感じでした。3月から夏休みまではロシア語のクラスで学んでいて、9月から、現在はカザフ語のクラスで学んでいます。先ほど寺尾さんも言っていたのですが、ロシア語はレベルに応じて5クラスぐらいあります。カザフ語は2クラスです。

現地での授業

➤3月～6月中旬 ロシア語

➤9月～現在 カザフ語



- ・5月いっぱいかけてТест(テスト)とЭкзамен(エグザミン)が行われる。
- ・6月初めから中旬にかけてはпрактика(プラクチカ)
- ・夏休みは6月中旬から8月の終わりまで。

5月いっぱいにはテストとエグザミンというものが行われます。このテストというのは、歴史、リスニングなど、各課目の先生が授業時間内に行う選択問題形式の試験のことです。エグザミンというのは、大学の正式な試験みたいな感じで、問題に対して文章で回答するものが多いです。5月にはそういうものがあります。

6月初めから中旬にかけて、テストやエグザミンが終わった後は、プラクチカという会話の練習に重点を置いた授業が2週間ぐらいあります。博物館に行ったりするほか、6月初めの「プーシキンの日」に、アルマトイのプーシキン広場で詩を披露したり、そういうことを行いました。

夏休みは6月中旬から8月の終わりくらいまでです。あと、日本のテストと違うなと感じたのは、エグザミンで自分の解答を文章で書いた後、先生と一対一の対面で自分の解答を発表するというのがあって、それは日本にはない形式なので、面白いなと感じました。

留学する前にしておくべき準備について話します。これを考えるのがすごく難しかったのですが、4つあります。持っていきたい日本の薬やこだわって使っている日用品があれば、早めにそろえておくことをお勧めします。私は体調を結構崩しやすいほうなので、日本から整腸剤などを持っています。それから、カザフスタンは郵便物を送るのが結構面倒です。受け取りの荷物なども、日本から送ることはできるのですが、持っていけるもの

留学する前にやっておくべき準備

- ・持っていきたい日本の薬やこだわって使っている日用品などがあれば早めに揃えておく。
- ・クレジットカードは無くした時の場合も考えて2枚作っておく。
- ・現地に既に留学している人や留学した先輩などと繋がりを作っておく。
- ・日本食や日本にいる家族、友達、大好きな人たちとしっかりと別れを惜しんでくる。

があればできる限り持って来たほうがいいかなと思います。

クレジットカードは、無くした時のことも考えて、私は2枚作ってあります。あと、現地に既に留学している人や過去に留学した先輩などとなつなかりをつくっておくと、何か分からないことがあったときにすぐに聴くことができます。頼れる人がいるというのは大事なかなと思います。

日本食や、日本にいる家族、友達、大好きな人たちとしっかりと別れを惜しんでくるというのも大事なかなと思っていて、これから留学するぞという気持ちの切り替えになりました。私の場合、日本食ロスというか、どうしても日本食が食べたくてしょうがないという気持ちにはなったことがなくて、カザフスタンにはカザフスタンのおいしいものがあって、日本には日本の美味しいものがあるので、そういう食で困ったなということはあまり感じていないです。

留學生活の中での楽しみ

➤その1「推し活！」

私の推し 

Мәлдір Әуелбекова(モルディル・アウエルベコヴァ)

カザフスタンの歌手。
BEYNEという自身のファッションブランドも立ち上げている。

- ・毎朝メイクやお弁当を作る際にモルディルの歌を聞いている。
- ・小さなイベントや歓迎会では私がモルディルの歌を披露することもある。
- ・彼女が出るコンサートにはできる限り行きます！



次は、留學生活の中での楽しみについて紹介します。その1は「推し活」です。留學先で推しができるのと、留學生活は絶対に100倍楽しくなります。私の推しはモルディル・アウエルベコヴァさんで、カザフスタンの歌手で、BEYNEという自身のファッションブランドも立ち上げている方です。モルディルさんのことは5月ぐらいから好きになりました。好きになったきっかけは、最初カザフスタンに来て1カ月寮に滞在して、その後1

カ月間ホームステイをしていたのですが、そのときにホームステイ先で見た歌番組で、あまりの歌声のきれいさやかつこよさ、華やかな雰囲気魅了されて、その場で歌の題名と歌手の名前を調べて、すぐファンになりました。9月にモルディルの歌を学部みんなの前で歌う機会があり、あらためて自分も彼女の歌を覚えて歌ったことで、そのとき以来普通のファンから熱烈なファンになりました。

この写真は、彼女のオフィス兼洋服の店舗がアルマトイにもあって、どうしても彼女が着ているこの緑の上下をおそろいにしたかったので、たまたま行ってみたら、本人もオフィスにいて運よくばったり会ったときのものです。そのときに、カザフ語で書いたファンレターも持っていて、その場で読んでもらえたので、本当にうれしかったです。

彼女はロシア語も普通に話せるのですが、8年前ぐらいから勉強したばかりで、ロシア語よりもカザフ語のほうが結構得意みたいなので、今は、モルディルさんとちゃんとカザフ語で話せるように、カザフ語のクラスで一生懸命頑張っています。留學先で推しができると、語学の伸びもやっぱり早いかなと思います。

今、ドンブラというカザフスタンの伝統楽器を習っています。習い事というより、結構本格的に練習していて、ドンブラの先生がいつも私に、「あなたには、才能がある」と言って褒めてくださるので、上達も早いです。きれいな指使いやきれいな音で演奏するようにと、細かく指導してくださるので、いい先生に巡り会えたなと思っています。

留學生活の中での楽しみ

➤その2「ドンブラ」

カザフスタンの伝統楽器である「ドンブラ」を習っています。

習い始めたのは5月下旬くらい。

➤その3「現地の学生との交流」

週に1回「会話クラブ」がある。

休みの日には近場で一緒に遊んだり、たまに先生方とも一緒に遠くの観光地までバスで行ったりすることもある。

留學生活の中での楽しみ、その3が、現地の学生との交流です。現地の学生というのは、主にカザフ国立大学東洋学部の日本学科の学生のことです。留學したばかりの時期に手続きを一緒に手伝ってくれ、本当に助かりました。会話クラブというロシア語と日本語の言語交換のクラブもあって、そこでの交流の機会がたくさんある

ので、今ちょうど、日本に留学しているカザフ大生たちも含めて、信じられないぐらいの人数の友達ができました。本当に仲良くなれるので、昔からずっと友達だったのではないかという気持ちになれるくらいです。休みの日には近場で映画を一緒に見に行ったり、アルマトイにあるメデウという山の観光地（高速スケートリンクが特に有名）があるのですが、そこに一緒に行ったり、先生方とともに一緒に遠くの観光地までバスで行ったりして、交流の機会はかなり多いです。

留学に行って良かったと思うこと

- ・習得したい言語の語学力が上がった！
- ・将来の夢が明確になった！
- ・強い精神力と生活力がついた！
- ・自己表現がうまくできるようになった！
- ・大好きな友達や先生が沢山できた！
- ・日本にはない美しい景色、美味しい料理、素晴らしい文化に出会えた！



留学に行ってよかったと思うことを6つ話します。

一つ目。留学に行って、習得したい言語の語学力が上がりました。やはり、習得したい言語が日常的に話されている地域に行って学ぶということは、とても大事なかなと思います。私も、日本でもロシア語を結構頑張って勉強していたのですが、それでも来たときはほとんど聞き取れないし、単語も言われていることもあまり分からなくて、すごく、勉強が本当にまだまだだったのだなと痛感しました。実際にここに来てから学んだ表現や単語がたくさんあるので、現地に行き、学ぶということは大切なのかなと思います。

二つ目。将来の夢が明確になりました。カザフスタンに来て、カザフスタンもカザフ語もすごく好きになりました。日本語学科のカザフ人の友達もたくさんでき、将来は日本とカザフスタンの外交に直接貢献できる仕事に就きたいと考えています。最終目標は、アスタナの日本大使館で働きたいです。

三つ目。強い精神力と生活力が付きました。20年間ずっと実家で両親と暮らしていたのですが、ここへ来て、今、一人暮らしをしていて、父や母がいつも当たり前のように家事をしてくれていたことのありがたさというか、自分だけだとこんなに大変なのだということも知って両親との関係も、私が留学してから、家族の仲もとてもよくなりました。日本では、いつも困ったらすぐ両親とかに相談して、助けも借りながら解決していたのですが、

ここに来て、ひとりで決めなければいけないこともあるし、ひとりで解決しなければいけないこともたくさんあるので、自分で考えて行動して交渉していろいろ解決するという生活力も付きました。

四つ目。自己表現がうまくできるようになりました。自己表現というか、積極性みたいなものですが、オドオドしていたら周りに埋もれてしまうので、自分はこんなことができるよとか自己アピールすることがとても大事だと今は感じています。日本では、目立つ人はちょっと嫌われるみたいなのがあるのですが、ここではそうではなくて、積極的に前に出てコミュニケーションを取るのとは全然悪いことではなくて、積極的に前に出てコミュニケーションを取ると、周りからもすごくたくさん声を掛けてもらえるので、大事だなと思いました。

五つ目。本当にかけがえのない、大好きな友達や先生がたくさんできました。今は、彼らと会って話すのがとても楽しいです。

最後、六つ目。日本にはない景色、おいしい料理、素晴らしい文化に出会えました。カザフスタンの観光地に行くと、日本では絶対に見られない、寺尾君が見せてくれていた、どこまでも大地が広がっているような雄大な風景などが見られます。日本の絶景に比べるとスケールが違うというか、本当に地平線とか遠くの山まで見えて、日本にはない美しい景色に出会えます。それから、カザフスタンには、中央アジア料理、カザフ料理、トルコ料理、ウイグル料理、ジョージア料理などがあって、どれも本当においしいです。

これで私の発表は以上になります。ありがとうございました。

梶山 池添さん、ありがとうございます。では、次は質疑応答とコメントの時間を取りたいと思います。ご質問がある方、お願いします。

松田 寺尾さんと池添さんのお二人にお伺いしたいのですが、カザフ国立大学の夏休みに当たるところで、準備学部でも授業がなかったのか教えてください。もしなかったら、その間どのようにしてロシア語を勉強していたのか。それと、夏休みに空いている時間でどう過ごしたかについても教えてください。

梶山 では、池添さんと寺尾さん、今の質問の回答をお願いします。

池添 準備学部ですが、夏休みは授業がありません。6月の中旬から8月31日まで夏休みで、その間に準備学部でロシア語サマーコースを受けることもできます。ただ私は受けていなくて、その間のロシア語の勉強は、基

本的に自分で、持ってきていた長文の本を読んだり文法の勉強をしたりしていました。でも、夏休み、一日中勉強していたのではなくて、結構友達と会う機会が多かったです。7月の初めは2週間、日本に一時帰国して家族と会ったりして、残りは、カザフに戻ってきてからは友達と過ごしている時間が多かったんです。ロシア語で毎日過ごしていたので、ロシア語を忘れるということはありませんでした。

寺尾 僕は、夏休みの間は同じ CIS の諸国とか、中央アジアのウズベキスタン、キルギスタン、タジキスタン、あとはジョージア、アゼルバイジャンなどを旅行していました。

松田 ありがとうございます。

梶山 では、田沼さん、ご質問がありましたら、発言をどうぞ。

田沼 比較文化学類の田沼結美子です。それぞれ2人は卒論で扱うテーマをカザフの大学で学んでいるということですか。

池添 質問ありがとうございます。私は、全然卒論のためではなくて、普通に語学としてロシア語とカザフ語を学んでいるという感じです。

寺尾 僕も同じ感じです。こちらのカザフ国立大学への留学は、一応交換留学なのですが、内容的には語学学校のような感じで授業が進んでいくので、学部授業とかの内容をロシア語で学ぶという感じではありません。ただ卒論のテーマをこちらで見つけて、こちらのフィールドワークや調査を通して、日本に持って帰って書くということは勿論可能だと思います。

田沼 ありがとうございます。もう一つ質問してもよろしいでしょうか。日本だと、割と夜間に歩いても大丈夫ですが、カザフスタンだと何時ぐらいまでは歩いてもいいとか、そういう基準があったら教えていただきたいです。

池添 質問ありがとうございます。今は一人暮らしをしているのですが、あまり危険と覚えることもなくて、野外コンサート等だと夜11頃に終わるのですが、そのまま普通にタクシーとかで帰ってきてても全然問題がないので、危険だと言われるような場所に行くというのは、もちろん気を付けてはいますが、あまりそこは心配する必要はないのではないかと考えています。治安は非常に良いので、ぜひカザフスタンにお越しください。

寺尾 そうですね。補足で、寮だと門限が11時なので、11時以前には帰るという感じに絶対なので、それ以前であればある程度女性1人で歩いていても問題ない

ぐらいの治安です。裏道などに入らなければ、まあまあ大丈夫だとは思います。

田沼 分かりました。ありがとうございました。

梶山 では、会場に戻って、ほかに質問やコメント等がある方、先生方もどうでしょうか。

臼山 では、私のほうからお尋ねします。留学中、特に授業を通して一番困ったことを教えてください。それから、生活上で困ったことを教えてください。その困ったことに対して、どう乗り越えたかを教えてください。

池添 授業で困ったことは、最初3月に来たときに、もう既に授業が始まっていて、みんなは9月から学んでいたもので、どのレベルが自分に合うのかがなかなかロシア語のクラスで見つけられなくて、それでちょっと最初は苦痛、というか、大学にいたときもロシア語は週に1時間、2時間だったところが、毎日ロシア語をしなくてはいけない感じで、少し苦痛に感じました。

どう乗り越えたかという点では、このクラスは自分にはレベルが高すぎるとか合わないと思ったら、すぐに先生に言って変えてもらえるように、自分でちゃんとレベルが合わなかったら言うことです。言ったら普通に変えてくれます。

生活上で困ったことは、なぜかストレス等で謎におなかを壊してしまうことが多いことです。この問題は、ビオフェルミンを飲んで解決しています。結構私は、日本にいたときは体調を壊すほうではなかったのですが、やはり違う国で、言語を聞き取るのも大変だし、色々な原因が引き金となり、最初は本当に体調を崩しやすいです。私も食べられなくなったりして、大変でした。日本で自分は結構元気なほうだったという人でも、こちらに来ると、やっぱり環境の変化等で何があるか分からないので、自分は持病もないし大丈夫とは思わずに、いろいろ用心して薬などを用意しておくことが解決策なのかなと思います。

寺尾 私は授業上で困ったことは、一応履修していたとはいえ、最初は本当にロシア語が分からなくて、初歩の初歩からだったにもかかわらず、格変化等ががつつり進んでいるような状況に放り込まれてしまったことです。そこでもまれて、何とか「ああ、そういうことか」と分かるようになっていったという、その過程自体がかなり印象的というか、大変だったなという思いです。

日常生活については、やはり寮生活ということで、少し大変な点もありました。今は1人増えたのですが、それまで2人部屋で、同じ筑波大学から来た赤坂君とずっと住んでいたんですけど、同じクラスに入って、同

じ部屋で、日常生活のほとんどの時間ずっと一緒にいるみたいな感じで、やっぱりそこまで同じ人と一緒に、本当に家族以上に密度の高い、長い時間を過ごすというのは、多少部屋の使い方も違うだろうし、やはり細かいズレが生じてくるかなというところで、それほど苦痛とは感じていないはずなのですが、そういったところは大変なのかなと…。それで乗り越え方としては、嫌なことは嫌だとか、これはこうしようとか、いちいちきちんと説明していくというか、言葉で伝え合っていくということがやっぱり大事で、それで乗り越えてきたかなと思います。

梶山 ありがとうございます。ほかの方はよろしいでしょうか。

鳥居 お久しぶりです。お二方とも一時帰国をされたのでしょうか？

寺尾 帰国されたのは池添さんでした。

池添 はい。

鳥居 久しぶりに日本に帰ってきて、カザフスタンでの生活と比較して新鮮みを感じたことや、あらためてびっくりしたことがあれば、教えていただきたいと思います。

池添 そうですね、アルマトイも、普通に発展しているというか、ちゃんとした都市なんですけど、こちらは高い建物といっても20階ぐらいまでが限界なので、帰ったら、実家が東京なので、やはり高層ビルでしょうか。

あと、アルマトイは結構排気ガスがすごくて空気が汚れていて、そういうところもあって、へんとう炎などを起こしてしまう方がいるようなので、アルマトイに行くときはマスクを持ってくるのも大切かなと思います。

梶山 では、皆さんよろしいでしょうか。時間が押していますので、次は、これからNipCAプロジェクトで実施していく研修についてお知らせしたいと思います。

臼山 寺尾君と池添さん、貴重な話、本当にありがとうございます！

徳田 皆さん、今日は遅いところお集まりいただき、ありがとうございます。最後に、NipCAプロジェクトでこれから募集するプログラムについて、簡単にご説明します。

今日も、去年参加してくれた学生さんが来ていますが、今年度もカザフスタン共和国のカザフ国立大学への語学研修を実施いたします。期間は2月16日～3月23日、35日間ぐらいを予定しています。募集対象は学群生と大学院生です。CEGLOC開設科目の「海外語学研修ロシア語C」として実施しますので、大学院生は単位の付与がないというところに気を付けていただきたいと思います。

す。定員は30名です。

費用に関しましては、今のところ、全額負担した場合はトータルで25万円程度とみていますが、為替やチケット代によって変わってくるかと思います。ただ、このプログラムはJASSO（日本学生支援機構）と「はばたけ、筑大生！」の対象になっていますので、成績優秀者に対しては10万～14万円ぐらいの補助が出ますので、大体15万円ぐらいで参加できるようになっています。

この募集はNipCAのウェブサイト申請書を掲示しますので、それをダウンロードして応募いただくことになっています。この掲載は今月末より始まりますので、興味のある方は、NipCAのサイトをチェックしてください。




次は、医療視察研修を、これもカザフスタンで実施します。これは3月10日～20日の10泊11日、対象が医学類、医療科学類、看護学類の学生で、費用に関しては25万円程度です。ただ、これも「はばたけ、筑大生！」の対象プログラムになっていますので、10万円前後補助金が出るということです。また「海外プロジェクト概論」の正規授業として行いますので、修了した場合、1単位がもらえます。

注意していただきたいことは、申請書に関しては、先ほどのプログラムと同じようにNipCAプロジェクトのホームページからダウンロードしていただくのですが、これの提出先は医学学群の教務課です。教務課のほうにメールで応募して、問い合わせに関しても医学群の教務課が担当していますので、応募したいと思っている方は気を付けてください。

簡単にNipCAプロジェクトのホームページについて、

ご説明します。このようにトップページを見ると、ここに「海外研修情報」というメニューが出てくるのですが、医学はここ、語学に関してはここをクリックしてもらうと申請書のページに飛びますので、興味のある方はぜひ見てみてください。

NipCA プロジェクトとしましては、こういった短期の研修プログラムだけではなく、大学間の交換留学の支援もしています。中央アジア、コーカサス、バルト、東欧諸国を対象としたマルチリンガル人材育成の派遣プログラムというのも支援しており、先ほど発表された寺尾さんや池添さんのように、Campus-in-Campus でカザフに行きたい方も、NipCA オフィスに相談してもらえれば支援いたします。

Campus-in-Campus は、普通はスチューデントサポートセンターで一括して募集しているのですが、年に2回しか募集しません。募集期間を外れてしまっても、行きたいなということがあれば、NipCA プロジェクトオフィスに相談してもらえればイレギュラーな感じで留学できることもありますので、ぜひ検討したい方は NipCA に相談してもらえればと思います。

こちらは JASSO の奨学金プログラムになっていますので、ある程度成績優秀であれば、こういった国の協定を結んでいる大学に JASSO 奨学金で留学が可能ですので少しでも興味がある方は、ぜひ NipCA に相談してみてください。

白山 少し補足させてください。この給付型の奨学金プログラムですが、結構な人数を派遣できるだけのお金が取れています。

成績ですが、筑波大学は A+ が 4 点、A が 3 点、B が 2 点、C が 1 点、D が 0 点という GPA の計算ですが、JASSO の計算は違って、A+ と A が 3 点、B が 2 点、C が 1 点、D は 0 点、それで平均が 2.3 以上。ですからオール A または A+ だと 3 で、3 点が満点です。そんな人はいないと思いますが、一応 2.3 以上であればこの給付型の奨学金をつけられますので、それ以上の成績がある人は、ぜひ応募してほしいと思います。



徳田 とても大事な情報が加わったということで、取りあえず、私のほうからは以上です。ありがとうございます。

梶山 最後に、閉会のごあいさつを、学生交流課の五十嵐千恵子課長にお願いしたいと思います。

五十嵐 時間も押しているので短めにと思いますが、学生交流課の五十嵐です。今日はこの研修と CiC の留学の報告会に、皆さんご参加ありがとうございます。また、発表して下さった皆さんのご準備と、内容も伺いまして、大変よかったと思います。ありがとうございます。

実は、個人的にですがコロナの前に、カザフ国立大学と、キルギスは日本センターにもお世話になっている留学フェアなどがありまして、それぞれの国に1週間出張に行ってきました。キルギスのほうではこういう定番のお土産を買ってきて、かわいいので、コロナ後もずっと4年間持っておりますが、中央アジアの国々は、日本ではあまり知られていないですね。でも、非常に魅力があります。

カザフ国立大学の宿舎の共同生活も見に行っただけで、シャワー室の様子などリアルに分かるのですが、なかなか日本では得られない体験を皆さんがしてくださったことがとてもうれしいと思いますし、いい場所ですので、今日成果として発表して下さった内容やこれから学んでいくであろうことを、今参加している皆さんなど次の代の行く人に伝えていただいて、魅力の発信をしていただけたらと思っています。

今、白山先生から奨学金のお話がありましたが、大学としても、学生の送り出しには非常に力を入れているので頑張ってください。自分も1年だけ海外経験がありますが、日本にいると見えないことが行くと見えてくるというのは本当にあるんですね。自分や日本というものを一歩引いて見る機会を与えてもらえますし、筑波のキャンパスにいては絶対学べないものが、いいにつけ悪いにつけ海外にはあるので、そういう意味で、ちょっと挑戦してみたいと思う人は、ぜひ行っていただけたらと思っています。

白山 課長は卒業生です。

五十嵐 はい。社会学類卒業です。これまでいろいろな国に出張に行っただけですが、中央アジアは、すごく面白くて、ぜひリタイアしたらキルギスのイシクル湖に行きたいと思っています。ですので、皆さん、ぜひロシア語を磨いて、またキルギス語やカザフ語、ウズベク語など中央アジアの現地語にも挑戦してください。語学研修の人も次のステップで長期の留学に行くことを考えて

みてください。国際舞台で活躍できるようなキャリアにもつながりますので、ぜひ頑張ってください。今日は皆さん、ありがとうございました。

梶山 すみません、最後に一言だけ。皆さんのお手元にアンケートがあると思いますが、ぜひご協力をお願いします。

臼山 学生の皆さん、今日はありがとうございました。

梶山 発表者の皆さん、ありがとうございました。寺尾さん、池添さんも、ありがとうございました。

池添 はい、ありがとうございました。お疲れさまでした。

寺尾 ありがとうございました。

海外研修・短期留学 合同帰国報告会 (カザフスタン)



日本財団 中央アジア・日本人
人材育成プロジェクト

2023年度に実施した、カザフスタンにおける海外研修（ロシア語語学研修/医療視察研修/短期留学）を修了した学生による帰国報告会を実施いたします。
また、2024年度実施予定の研修プログラムの紹介もいたします。

中央アジアやロシア語圏の文化、海外研修などに関心のある方、是非お気軽にご来聴ください。

■日時：2024年4月22日（月）

18:15～20:00

■会場：筑波大学 スチューデント・コモンズ
(1A棟203)

プログラム内容

・2023年度実施プログラム参加学生からの報告

- ①語学研修グループ（2024年2月16日～3月23日実施）
（研修先：CiC協定大学 アルファラビ・カザフ国立大学）
- ②医療視察研修グループ（2024年3月10日～20日実施）
（研修先：アルファラビ・カザフ国立大学、ナザルバエフ大学、
小児リハビリセンター訪問、アスタナ医科大学 他）
- ③短期留学 3名（1年間）
（研修先：CiC協定大学 アルファラビ・カザフ国立大学）



CiC協定大学 アルファラビ・カザフ国立大学



(写真：学生提供)

・2024年度実施プログラムの紹介

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人人材育成プロジェクト(NipCA)」
TEL: 029-853-4251 / Email: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
Website: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>



2023 年度 春季海外研修、短期交換留学 合同帰国報告会（カザフスタン）

■日時：2024 年 4 月 22 日（月）18:15 ～ 20:00

■会場：スチューデント・コモンズ（1A 棟 203）

■プログラム（※学年は 2023 年度時点）

18:15 ～ 18:17 開会挨拶（白山利信教授）

18:17 ～ 18:27 ロシア語・カザフ語短期語学研修 グループ A

新川朝日	総合学域群第一類 1 年
樋口凜り子	社会・国際学群国際総合学類 2 年
角濱さくら	人文・文化学群人文学類 2 年
藤原健人	人文・文化学群人文学類 4 年

18:27 ～ 18:37 ロシア語・カザフ語短期語学研修 グループ B

野村レイナ	人文・文化学群人文学類 1 年
高橋蓮	人文・文化学群人文学類 1 年
遠藤拓馬	社会・国際学群国際総合学類 2 年
藁谷そら	社会・国際学群社会学類 3 年

18:37 ～ 18:47 ロシア語・カザフ語短期語学研修 グループ C

渡部孝紀	生命環境学群生物学類 1 年
富田明日紀	人文・文化学群比較文化学類 2 年
岡本みもり	社会・国際学群国際総合学類 2 年
万代晴香	人文・文化学群人文学類 3 年
柴田葵	理工学群社会工文学類 3 年

18:47 ～ 18:57 質疑応答・コメント（10 分）

19:00 ～ 19:10 海外医療視察研修（カザフスタン）

鈴木萌楓	医学群医学類 3 年
結城舞	医学群医学類 2 年
田崎彩名	医学群看護学類 2 年
熊倉緑里	医学群医療科学類 3 年

19:10 ～ 19:17 質疑応答・コメント（7 分）

19:20 ～ 19:28 交換留学（アルファラビ・カザフ国立大学）

19:00-19:10	赤坂幸亮	人文・文化学群人文学類 4 年
19:28 ～ 19:36	寺尾優汰	人文・文化学群比較文化学類 4 年
19:36 ～ 19:44	池添里彩	人文・文化学群人文学類 3 年

19:44 ～ 19:54 質疑応答・コメント（10 分）

19:54 ～ 20:00 閉会挨拶（小林佑介准教授）

事務連絡

宗野 時間になりましたので、ただ今より 2023 年度春季海外語学研修・短期留学合同帰国報告会を始めます。皆さん、こんばんは。まず初めにプログラム責任者の白山先生から開催のごあいさつを頂きます。よろしくお願いいたします。

白山 皆さん、こんばんは。

会場 こんばんは。

白山 ほとんど語学研修や海外研修、留学したい学生さんばかりだと思いますが、全く海外に行ったことがないとか、今回、語学研修に関心があって来たという学生さんはどれだけいますか。いないですか。

会場 います。

白山 いました。よかった。ありがとうございました。

中央アジアというとなじみがないというか、学生の皆さんは高校まではほとんど知らなかったのではないかと思います。1 年次の初修外国語としてロシア語を学習したり、あるいは、「はばたけ、筑大生！」や海外語学研修（ロシア語）に参加した上の学年の学生に話を聞いたりして、海外に行けるということではいろいろなところから中央アジア諸国での語学研修の情報を得て、実際に行ってみたいな、チャレンジしてみたいなということで参加した学生さんもいるかと思います。とにかく海外語学研修にしても医療視察研修にしても交換留学にしても、全く違う世界に身を置いて生活することは非常に貴重な体験です。まず衣食住、全部違います。宗教も言語も違います。しかもカザフスタンは、マルチリンガル社会、カザフ語とロシア語のバイリンガル社会です。皆さんはコードスイッチング（複数言語間の言語切り替え）に驚きませんでしたか。突然ロシア語からカザフ語に変わっていたり、カザフ語をしゃべりながら相手がロシア語で答えたり、言語系統が全く違う言葉なのに多様な形態の言語の切り替えを行う、そういう世界があります。いずれにしても、今日発表する、カザフスタンでの研修や交換留学を経験した筑波大生たちは、日本とは全く違う中央アジアの世界で貴重な体験をし、これから日本と世界で生きていく上で非常に重要な能力を伸ばすことができたのではないかと私は思っています。

まず一つ目は、自分を客観視できる能力、メタ認知です。それから、日本とカザフスタン、日本を中心とする東アジアと中央アジアなど比較の視点への気づきです。皆さんの中には、子どものころや高校時代にオーストラリアやカナダ、アメリカなど欧米の文化圏に行った体験を持っている人もいるかもしれませんが、おそらくそういった欧米の世界との違いへの気づきもあります。

二つ目は人間的な成長です。発表者の学生は、具体的な目的を持って参加したと思います。語学研修だったらロシア語、カザフ語の習得、医療視察研修であればカザフスタンの医療事情を学ぶ、あるいは現地の医大生と医学・医療に関するディスカッションをして考え方を学ぶことなどです。交換留学であれば、語学だけではなく専門的な知識を得るなどの目的もあったと思います。

それぞれが目的を持って実際に行くわけですが、そこで見えてくるものがあります。それが自身の課題ですね。自分自身に何が足りないか、これから何をしたらいいかという、いろいろな課題が明確になったと思います。そして、海外での学びの体験が自分の将来に大きな影響を及ぼす可能性もあります。海外研修や交換留学の中で自分の将来ビジョンが描く、あるいはたとえ明確に描けなくても参考になる体験を通して自分の学生生活を改めて見つめ直し深掘りすることで、大学卒業後の自身の未来の構想も出てきたのではないかと思います。

研修前の自分と研修後の自分、留学前の自分と留学後の自分は、私は全然違うと思っています。その部分、一人一人の人間的な成長の部分に僕は今日非常に聞いてみたいです。自分の中で何がどのように変わったのか。どういう点が成長できたのか。そういうところを楽しみに私は皆さんの発表を聞きたいと思っています。

長くなってしまうかもしれませんが、私のあいさつはこれで終わりたいと思います。（拍手）

宗野 白山先生、ありがとうございました。それでは早速発表に入ります。まずは海外語学研修をされた方々によるグループ発表です。質疑応答はグループ発表が終わってからまとめて時間を取ります。よろしくお願いいたします。

今日はたくさんの発表があり時間的にタイトですので、時間を守ってください。今日はタイムキーパーがいて発表時間残り 2 分でベルを 1 回、発表時間終了時にベルを 2 回鳴らしますので、ベルが 1 回鳴った時点で「ちょっと急がないと」と思って調整していただければと思います。

では、初めの発表はグループ A です。新川さん、樋口さん、角濱さん、藤原さん、お願いします。

角濱 グループ A です。お願いします。まず私はカザフでの授業と交流について話したいと思います。

授業はロシア語がメインで、週に 2 回カザフ語とカザフスタンについての授業があり、最後の方に 8 回くらい CiC（キャンパスインキャンパス協定に基づく相互授業参加制度）の英語の科目がありました。上が実際の時

海外語学研修 帰国報告

グループA：葛原健人・角濱さくら・樋口涼り子・新川朝日

授業について

授業の内容

- ・ロシア語
- ・カザフ語・カザフスタンについて
- ・CIC科目

授業の様子

- ・準備学部と東洋学部の棟
- ・留学生（中国人・韓国人・トルコ人）が多い



現地での交流

- ・カザフ人の学生との交流
- ・留学生（授業であった人）との交流
- ・現地で学んでいる日本人学生との交流
- ・日本語弁論大会への参加



間割で、私は第9グループでした。月から水までが基本的にロシア語、木曜日がカザフスタンの歴史とカザフ語、金曜日がロシア語の会話、土曜日も授業がありました。

授業の様子なんですけど、私たちは日本人で固まるわけではなく、1人から3人の日本人ごとに別々の授業を受けたので、クラスには日本人以外にも中国人、韓国人、トルコ人の学生も多くいました。

次に、現地での交流についてです。私たちが着いてすぐにカザフ人の学生が交流会を開催し料理や民族音楽などを披露してくれました。他にも先ほど言ったように授業で仲良くなった中国人留学生と一緒にご飯に行く学生もいました。

現地で学んでいる他大学の日本人学生との交流もありました。これは実際にカザフでスタディーツアーやロシア語を勉強しに来ている他大学の学生と一緒にご飯に行っている時の写真です。

ホームステイについて ～ホストファミリーとの交流～

- ・お出かけ
雪山スライダー、スキー・スノボ、アイススケート、ショッピングなど

- ・日本を紹介
日本食、日本語、折り紙、お箸など



最後の週に、日本語を勉強しているカザフ人の学生たちが日本語の弁論大会で発表する場があったので、そこに参加して、カザフの学生や日本と関わっている企業の方々と交流する機会がありました。

新川 新川と申します。僕からはホームステイ、ホストファミリーとの交流についてお話しします。

僕はカザフ国立大学の授業がない日に、ホストファミリーと一緒に外出掛けを何回かしました。その中でとても印象的だったのが、左下の、大きなスライダーがある雪山に行ったことです。他の学生たちもスキーやスノーボード、アイススケートなどさまざまなアウトドアアクティビティーに、ホストファミリーの人たちに連れられて一緒に行っていました。

このようなアウトドアアクティビティーでは、普段の生活では見られないホストファミリーたちの表情を見ることができて、かなり心の距離が縮まったように感じました。

また、ホストファミリーは、日本人留学生を受け入れてくださっているので日本にある程度の興味があり、私が日本の文化などを紹介した際にはとても喜んでくれました。

私はカザフスタン、アルマトイにカレーと筆ペン、折り紙などを持ち込んでいたので、現地のスーパーでニンジンやジャガイモなどの食材を買ってカレーを作ったり、ホストファミリーの人たちの名前に漢字を当ててみたり、真ん中のハリーちゃんと一緒に鶴を折ってみたりしました。とても楽しかったです。

次に、アルマトイの交通事情について話します。アルマトイでは道路の容量が小さくて、道路に駐車している車がとても多いので交通渋滞が多いです。さらに、アルマトイの人々は車の運転がとても荒いので、それが交通渋滞に拍車をかけている印象でした。

私は交通渋滞が苦手なので、バスを避けて途中からメトロを使うようになりました。これがメトロのホームです。メトロはアルマトイの中心部を貫いて東西に通って

交通事情について

- 凄まじい渋滞、運転、排気ガス
- メトロ
- 電動キックボードの普及



いる1本の路線しかなく、地下鉄網はあまり発展していません。そのため私はバスで大学に行くよりも3倍くらい歩いて通っていました。アルマトイでは自転車を使っている人は少なかったのですが、代わりに街中の至る所で電動キックボードを使う人がみられました。

樋口 次に、カザフスタンの食べ物と飲み物について説明します。一番左側にあるのがマンティです。マンティは、カザフスタンでは中にカボチャやウリ、羊肉などを入れて蒸して食べます。

右側はベシュバルマクという、おもてなしのときなどに出来る民族料理です。馬肉か羊肉を中心に作られていて、ゆでた麺と共に肉のだし汁をかけて調理されるものです。ちなみに、カザフスタンにはベシュバルマク味のポテトチップスもあります。私はそれほど好きではなかったです。ちょっと独特で不思議な味がしました。

カザフスタンの食文化



Манты (マンティ)



бешбармак (ベシュバルマク)

カザフスタンの食文化



Пельмени



サモワールとボルサク

このスライドの一番左側がペリメニという料理です。

日本の水餃子みたいな物で、ひき肉や刻んだ野菜をあんに包んでゆでて作ります。右側の写真の下のは、茶色いボルサクという揚げパンのような料理で、カザフスタンの街中のいろいろな所で売っていました。

おじいちゃんが持っているのは、チャイ（現地の紅茶や緑茶）を飲むときに使うサモワール（ロシア由来のお茶専用の湯沸器）というものです。中央に炭火などの燃料を入れて、周囲の空洞部に水を注いで沸騰したら準備完了で、紅茶をティーカップに注いでお湯を足して味を調整できます。

カザフスタンの文化一言語一



藤原 発表者が代わりまして、大学院修士課程人文学学位プログラム言語学サブプログラムの藤原です。私からはカザフスタンの文化について言語の面から紹介します。

Q. カザフ語を学ぶ必要はない？

A. Жоқ

⇒カザフ語を学ぶことでカザフ文化への理解が深まるから

カザフスタンについて少しでも調べたことがあれば、ロシア語とカザフ語が主要な言語として使われているのは誰でも知っていると思います。

今回 CiC 協定大学のアルファラビ・カザフ国立大学で勉強したわけですが、大学生だと英語もかなり上手で、東洋学部に行くと日本語が上手な学生もたくさんいて、多言語性、マルチリンガリズムにはすごく驚かされることが多かった。ただ、多言語性ばかり強調されて、実際はどうかということとあまり皆さんもその実態はわからないないと思います。

また、カザフ語かロシア語ができれば生活していける

とされているので、第2外国語のロシア語だけ勉強すればカザフ語を勉強する必要はないのではないかと思う学生も多いと思います。実際、私もロシア語だけで基本的に生活したのですが、特に困ることはなかったです。ただ、この問いに関しては、Жоқ (ジョーク)、すなわち、カザフ語の「いいえ」というふうに答えたいと思います。というのも、カザフ語を勉強することで、現地のカザフ文化への理解が深まるからです。



具体例を挙げると、これはナウルーズという旧正月の様子です。ナウルーズはカザフスタン固有のお祭りというわけでもないのですが、こういうハレの日になるとカザフ的な場所が構成されて、みんなカザフ語をしゃべるのです。

印象的なのが、ホームステイ先で僕がカザフ語をあまりしゃべれないということを知っているにもかかわらず、家族のみんなが僕にカザフ語でしゃべりかけてきました。カザフ民族として大切な時間を過ごすときには、そういうカザフ的な場所が特別に構成されていて、とても面白いと思いました。

結論

- ・カザフ語はカザフスタンの文化を理解するためにめっちゃくちゃ重要
- ・積極的にカザフ語を使ってみよう
きっと喜ばれるはず

結論というか所感なのですが、カザフ語はカザフスタンの文化を理解する上でとても重要です。現地では、積極的にカザフ語を使うことを強くお勧めします。カザフ語が分からなければ、ロシア語なり英語なりを混ぜてしゃべったらきっと気持ちは伝わるとおもいます。

これでグループAの発表を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

宗野 ありがとうございます。では、次にグループBの野村さん、高橋さん、遠藤さん、藁谷さん、お願いします。



藁谷 高橋、野村、遠藤、藁谷より、ロシア語・カザフ語短期語学研修の報告をします。



私からは語学研修とカザフスタンの概要を説明します。私たちは2月16日から3月23日までの35日間、カザフスタンのアルマトイ、アルファラビ・カザフ国立大学で語学研修を行いました。ホームステイをして、おのおのホストファミリーには大変お世話になりました。私たちは、NipCA プロジェクト、JASSO (日本学生支援機構) の奨学金、もしくは、「はばたけ! 筑大生」から支援を受けて研修に参加しました。

内容としては、ロシア語研修、カザフ語研修、異文化交流などです。皆さんはご存じだと思いますが、アルマトイはスライド内の地図の円で囲ってある所で、中国とキルギスの国境に接しています。カザフスタンは中央アジアの中でもかなり発展している国で、私たちが滞在したアルマトイはカザフスタンでも最大の都市で南の首都とも呼ばれています。私の地元（福島県）よりとても発展していたので、私的には生活には全く困りませんでした。

遠藤 ここからは現地での生活を通して感じたことを話します。まずとにかく寒かったです。着いたらマイナス20度の空気が私たちを襲いました。すごく寒かったです。本当にびっくりしました。



ラマダンの期間（断食月）を過ごすこともありました。研修の後半はラマダンとかぶっていたため、お昼を過ぎて夕方になって日が落ちる頃になるとものすごくレストランが混んでいました。

各家庭でも、これは人によるのですが、「ああ、ラマダンなんだな」と思う瞬間がありました。

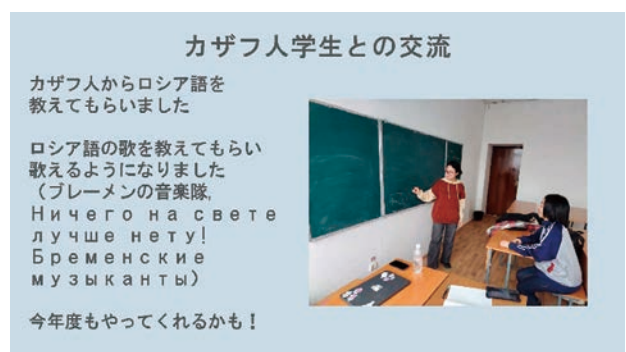
あと、カザフスタンで地震に遭ったんですよ。これがとても印象的で、僕はこの日、昼、外にいたので揺れに気付かなかったんですけど、震度3ぐらいの揺れが襲ったんですね。それで「やたら人がガヤガヤしているな」「あれ、今日、祝日だったっけ？」と思ったんですが、後で見たら結構大きな揺れが起きていたみたいで、学校は午後の授業が休講になりました。カザフ国立大学の校舎でもひびが入ったりして結構大変なようでした。

次に、国際女性デーが3月頭にあったんですけど、花を贈るという文化が根付いていてとても素敵だなと思いました。そして、帰国する日はナウルーズとかぶっていたので、それぞれの家族とこのようにイベントに連れて行かれたりして、カザフの文化を感じることができました。

食べ物編ですね。カザフの伝統料理もありますけど、



他の料理も混じっています。とにかく色々ありました。上はマンティです。そして、ベシュバルマクです。これは韓国料理なんですけど、アルマトイは韓国料理屋がいっぱいありました。これも魅力的だなと思いました。そしてこれはボルシチなんですけど、ホストファミリーの家で出てきました。そしてこれはケバブなんですけど、トルコ料理も意外と多いという印象でした。民族的な感じからも想像できるものがありました。以上です。



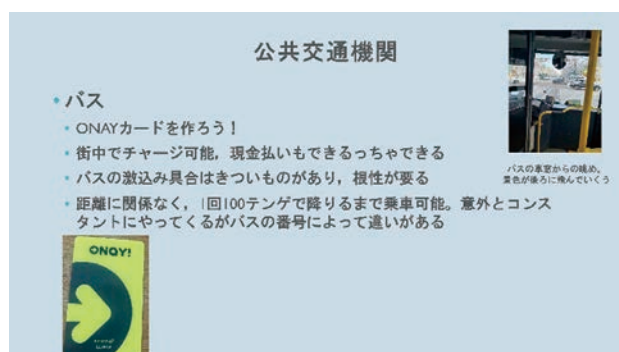
高橋 はい、皆さんどうもこんばんは！高橋です。「カザフ人学生との交流」という題名なのですが、カザフ人学生からロシア語を教えてもらったんですね。何でロシア語の授業が大学であるのにカザフ人学生からわざわざ教えてもらわなければいけないかというと、大学のロシア語の授業がかなり難しいからです。しかも、ロシア語で教えられるので余計に理解ができない。そういうことで、カザフ人学生の方のご厚意で個人的に教えてもらいました。

具体的に何をやってもらったかと言うと、もちろん文法の解説もそうなんですけど、ロシア語の歌も教えてもらいました。『ブレーメンの音楽隊』だった気がします。Ничего на свете лучше нету! っていう。白山先生、分かりますか。

白山 分かるよ。「この世にこれ以上のものはない」。

高橋 そうです。そういう感じの歌を教えてもらいました。もしも今年度語学研修に行く人がいたら頼めばやっ

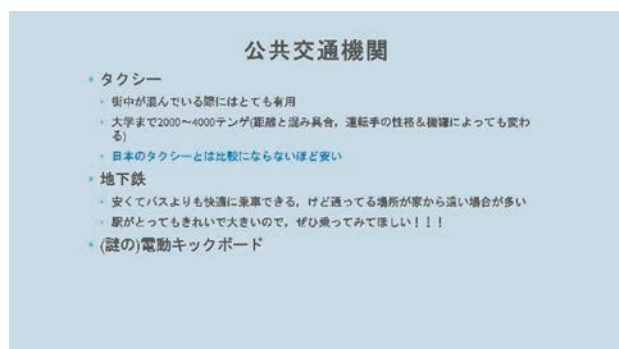
てくれるかもしれないので、現地の学生と知り合いになったら頼んでみるといいんじゃないかと思います。右は教えてもらっている写真ですね。はい。では、次にいきます。



遠藤 代わりまして遠藤です。公共交通機関について見ていきましょう。まずバスです。僕、びっくりしたんですよ。運賃は全部 100 テンゲ、日本円で 33 円ぐらいの値段でアルマトイ中のどこでも回れるのです。僕はこのことに本当にびっくりして、じゃあ、遠くまで行けばお金はかかるけど、それほどたいしたことないので、いっぱい移動できるなと思って興奮気味に友達に話したら、実は東京や京都でもそういうシステムがあるらしいことに気がきました。

街中でチャージができたり、ONAY カードを作ったり貸してもらったりすることが非常に重要になってきます。これがあることで、100 テンゲで乗れます。もちろん、現金払いもできます。カードを忘れたときも最悪お金を持っていれば行けるので、安心してください。ただ、120 テンゲかかるということでした。

バスはとにかく混んでいる時間帯が多いので、そこは根性で押し切るしかありません。あとバスの番号も自分の目で確認して追っていくのが大変でした。難しかったけど、これもすごくいい思い出です。

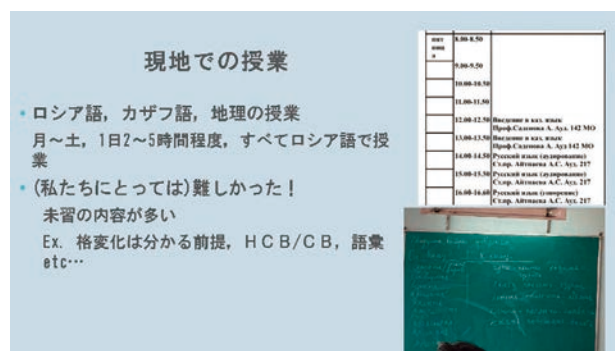


タクシーは街中が混んでいる際にはすごく早く着いた

りするので、有効な手段として考えていいと思います。大学まではだいたい 2,000 ～ 4,000 テンゲでした。ただ距離と混み具合、運転手の性格によっても運賃も変わるのであまり参考にはならないかもしれないです。ただ一つ言えるのは日本のタクシーよりはるかに安いので、日本で使う時みたいに躊躇しなくても大丈夫です。

地下鉄もあります。先ほどの発表でも言及されていました。地下鉄は確かに快適ですが、場所によっては目的地まで相当な距離を歩かなければならなくなったりします。

それから電動キックボードがありました。3 月に暖かくなってきた時に急に街中に現れ出したんですけど、カスピという日本の PayPay みたいな物が必要みたいで、私はそれを持っていなかったので使えませんでした。でも、乗って見たかったです。皆さん、アルマトイに行ったら僕たちの代わりに乗ってみてください。



野村 カザフ国立大学の授業は、先ほどの発表にさらに情報を付け加えると、まず昨年度 9 月から始まっている、すでに半年たった授業に僕らは入れられました。僕らはロシア語を習って 1 年ぐらいの人が多かったですが、進度は現地のクラスのほうが進んでいて、文法が分からないので、最初はすごく苦労しました。自分で必死に食らいついて勉強したらだんだん付いていけるようになりました。

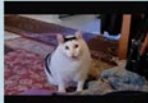
時間割の例

	月	火	水	木	金	土
8:00~		ロシア語文法	ロシア語会話			
9:00~		ロシア語文法	ロシア語文法			ロシア語文法
10:00~			ロシア語文法			ロシア語文法
11:00~						ロシア語文法
12:00~	カザフスタンの地理・歴史				カザフ語	ロシア語会話
13:00~	カザフスタンの地理・歴史			ロシア語文法	カザフ語	
14:00~				ロシア語文法	ロシア語会話	
15:00~				ロシア語文法	ロシア語会話	

これは時間割の例です。遅刻する学生は結構いました。あと、先生がロシア語で何を言っているのかよく分からないことが多かったので、そういうよく分からない時用に対処する語彙がすごく増えました。

分からない時用の語彙が増える

- Я опоздаю (遅刻します!)
- Повторите еще раз (もう一回言ってください!)
- Не понял (理解できなかった)
- Помогите (助けてください)
- Простите (すみません)
- Как называется? (なんという名前ですか?)
- Как ты сказал? (何と言ったの?)



高橋 これは授業がない時の見学旅行のスライドです。写真を見てももらえば分かるんですけど、アルマトイの郊外に行くと、こういう草原が広がっています。冬だったので草は生えてないのですけど、たぶん夏になったら生えると思います。この草原に野生の馬がいたりするそうです。雪が少しありますが、この時はロバがいました。

見学旅行




草原の野生の馬
雪上のロバ

これはチャリンキャニオンです。観光地なのですが、見ての通りこういう感じのやつです。

チャリンキャニオン




谷！
砂漠！

タムガリタスという遺跡もありました。古代人の岩絵があるので、もし古代遺跡に関心のある人は行ってみる

といいのではないかと思います。

タムガリタス遺跡




絵！
川！

藁谷 参考までに、残りのスライドはこちらです。時間も過ぎたので、これで終わります。ご清聴、ありがとうございました。

事前に準備しておくべき物・事

- 実用性の高いフレーズ・単語を覚える
- 単語帳
- 文法書
- モバイルバッテリー (寒さでバッテリーの減りが速くなる)
- ジップロックの袋 (個包装なしの食べ物を保存するのに便利)
- インスタグラムのアカウント等, 現地で主流なアプリのアカウントをつくる

ご清聴ありがとうございました

質疑応答

現地の治安は？	おすすめの観光地は？	食事はどんな感じ？
ホストファミリーに喜ばれるお土産は？	研修中のトラブルは？	現地の気候は？
研修中 づらかったことは？	日本から持っていくべきものは？	研修中、役に立ったサイトやアプリは？

宗野 それでは、グループCの渡部さん、富田さん、岡本さん、万代さん、柴田さん、お願いします。

万代 グループCの発表を始めさせていただきたいと思います。私たちは、三つのトピック、祝日、風景、教育という観点からカザフスタンについてお話ししたいと思います。

まず私からです。幾つか先ほど他のグループの発表でも出てきたのですが、3月は祝日を多く体験したので、そちらについて紹介したいと思います。

International Women's Dayです。皆さんはご存じか分からないのですが、毎年3月8日は、女性の日、国際婦人デーとして認定されていて、カザフスタンでは3月8日が国民の祝日としてお休みの日になっています。日本だとあまり意識することは、私はなくて、恐らく皆さんもそんなに女性の日を意識したことはないと思いますが、カザフスタンではすごく重要な祝日として大事にされています。

この日は男性が女性に花などプレゼントを贈る日とされています。カザフスタンでは、普段からお花を贈る文

International Women's Day



202110675 万代結香

カザフスタンの祝日

3月8日 女性の日



International Women's Dayとは
毎年3月8日に女性を祝う国際デーのこと

日本ではあまり注目されていないが、
カザフスタンでは国民の祝日に規定されている

カザフスタンの社会と文化

ロシア語留学研修・グループC
渡部千絵、高田博志、栗本みどり、万代結香、栗田奈

男性が女性に 花（チューリップ）やプレゼントを贈る日

女性の日の前後には多くの花が道端で売られていた

基本的には男性から女性へ贈られるが、
大学の先生など目上の女性に対して
女性がプレゼントを贈る光景も

春の花であるチューリップが贈られることが多い



女性の日の重要性

ホストブラザーによると

カザフスタンで女性の立場は男性に比べて弱いため、
女性を称える「女性の日」は非常に重要な
イベントとして捉えられている

日本では「女性の日」があまり認知されていない
ことに衝撃を受けていた



化がありますけど、この日の前後、そして当日はとくに、道端などで本当にすごい量の花が売られていました。

基本的には男性から女性へ贈られるのですが、大学の先生に対して女子学生がプレゼントをしたり、女性同士がプレゼントを贈る光景も見られました。私もホストファミリーからお花を頂きました。このときあげる花は基本的にチューリップが多いみたいで、それはこの時期

に春の花であるチューリップがいっぱい咲いているからみたいです。

ホストブラザーと女性の日の時に1時間ぐらいいたら英語でしゃべっていたのですが、女性の日は日本ではそれほど祝われないという話をするとすごく驚いていて、ホストブラザーいわく、カザフスタンで女性の立場は男性に比べて弱いので、女性をたたえる女性の日は非常に重要なイベントとして捉えられています。だからと言って女性が普段はそれほど大事にされていないこともないと思うのですが、そういう場面があるので、女性の日で女性をお祝いする、たたえるのはすごく重要なこととして、カザフスタンの男性に認識されているんだと大きな衝撃を受けました。

日本で女性の日があまり認知されていないので、日本でも女性の日があるといいのかなと私は思いました。お花をいっぱいもらえるので。



富田 僕からはナウルーズについて紹介したいと思います。これは人によって見解が分かれると思いますが、友達や僕のホームステイ先のファミリーに聞いた話によると、1年で最も大きい、そして長い祝日がナウルーズに当たるそうです。ナウルーズはもともと目的が春を祝うための祝日で、すごく華やかなパレードとかがあり、皆さん楽しんでこの3日間を過ごすそうです。

ナウルーズの由来ですが、ナウルーズは「新しい日」という意味の古代ペルシャ語に起源を持つ、現在では中央アジアから東ヨーロッパまで多くの地域で広く行われているお祭りだそうです。地域性という意味で、中央アジアらしいお祭りだと思います。

ナウルーズ当日は、僕も参加しました。カザフスタンで1番有名な国民的な詩人、アバイさんの銅像が建っているアバイ通りを中心に、大きな通りがアルマトイ市内に連なっています。そしてアバイ通りを中心に、パレードや出店などが大規模に行われていて、ここの写真に載っている通りなんですけど、アゼルバイジャンやタ

一年で最も盛大な祝日ナウルーズ

ナウルーズは、3日間に渡って行われる大きな祝日で、来た春を祝うための祝日です。



ナウルーズ当日

アルマトイ市内では3/23当日、アバイ通りを中心に、イベントスペースが設けられ、たくさん人で賑わいました。



ジキスタンなどカザフスタン以外の国からもたくさん出店していて、中央アジアの国境を超えた垣根の広さを感じました。音楽祭も行われていて、音楽に対する文化からもすごくインスピレーションを得ました。

3月23日当日、僕がこの会場に行く直前、実際にカザフスタンのヌルスルタン大統領がここにいらっしやったということで、会えなくて残念だと感じています。研修最後の期間にこういう大事なお祭りに参加できたこと自体が、本当に僕にとって貴重な経験でした。僕からは以上です。

渡部 私からは、風景から感じたカザフスタンの文化について発表します。私がカザフスタンに行った目的の一つは、日常でなじみのない風景を見たいということでした。

左側がヴォズネSENSキー大聖堂で、100年以上の歴史がある木造のロシア正教会です。右側がアルマトイの中央モスクです。この二つの建築物は距離が1キロぐ

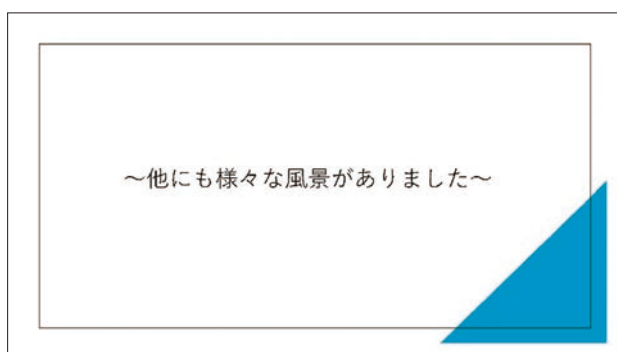


風景から感じたカザフスタンの文化



らいしか離れていなくて、それこそ 15 分以内で行き来できるので、散歩がてら見物をすることができます。

これは個人的に思ったことですが、ごく自然と二つの建築物が街中に溶け込んでいるように感じて、カザフスタンの文化の調和を直に感じるができるのではないかと思います。カザフスタンに行ったことがない人は、研修などに参加してこういう風景をぜひ見てきてほしいなと思います。以上です。



柴田 私からは身近な街中で見つけた風景を紹介します。まず一番左側は噴水の周りにある十二支のオブジェです。この中にカタツムリも含まれていて、なかなか面白いと思いました。真ん中はアルマトイならではのリンゴのオブジェです。たくさんありました。ちなみに、カザフ語でリンゴはアルマです。そして、犬です。犬を飼っている人も多いのですが、野良犬もたくさんいます。たまにハトをくわえて走り回っている犬もいま



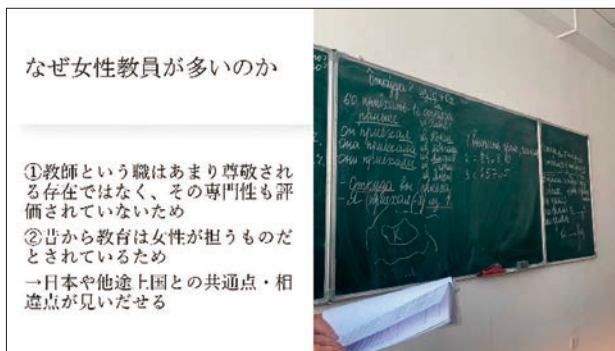
したね。

他にも道路標識も少し違います。走っている人の標識は、スクールゾーンの意味らしいです。真ん中は横断歩道の押しボタンですね。一番右側はトロリーバスの中で見つけたピクトグラムです。たぶんペット持ち込み禁止という意味だと思うのですが、ウサギのピクトグラムがあるのはなかなか斬新だなと感じました。他にも面白いものがたくさんあったので、皆さんも街歩きを楽しんでください。

岡本 最後に、私からカザフスタンの教育についてお話しします。国際総合学類の岡本です。カザフスタンと日本の教育について違いを比べてみました。

日本は大学の先生のほとんどが男性で、小学校でも男女比はだいたい半分ずつかなって私は思っています。ですが、カザフスタンで私たちがいた大学では、大学の先生はほとんど女の人で、恐らく小学校もほとんど女性とのことでした。





これについてカザフスタンの大学の女の先生に直接聞いたところ、理由を二つ挙げてくれました。一つが教師という職があまり尊敬される存在ではなくて、かつ、専門性もあまり評価されてなく、その分、社会的立場の弱い女性が就くことが多いということでした。

二つ目は「昔から教育は女性が担うものとされている」と書いたのですが、そのまま、本当に昔から女の人が先生をやり、そして男の人は肉体労働などに就くことが多いので、女性の教員が多いと言っていました。それで、私は①は日本とも近いと感じたのと、他の途上国でも同じようなことが言えるのではないかと考えました。

これで私たちの発表は終わります。ご清聴ありがとうございました。



宗野 ありがとうございました。それでは、質疑応答やコメントの時間に入りたいと思います。皆さん、いかがでしょうか。聞いてみたいことや何か付け足して言いたいことがあったら、遠慮なく手を挙げてお知らせください。どうでしょうか。

白山 遠慮なくどうぞ。

野村 参加者の者なんですけど、さっきウサギのピクトグラムがあったじゃないですか。あれはホストファーザーいわく、日本だと無賃乗車を意味するキセルを示しているそうです。

会場 ああ、Зайцем（ザイツェム）！

山本 いや、分からない人もいるから…。

白山 そう、ロシア語を直訳すると「ウサギで行く」という表現で、無賃乗車を意味します。

野村 無賃乗車をしたら駄目ですよ、ということです。

宗野 いかがでしょう。他にコメントとか聞いてみたいことなど何でも自由に発言してください。

結城 海外医療視察研修に参加しました結城舞と申します。私たちはナウルズのお祭りの当日の前に帰国してしまったので、参加できた人がうらやましかったですけど、感想や印象に残ったエピソードがあれば教えていただけたらうれしいです。

宗野 ナウルズの思い出についていかがでしょう。

富田 3日間続いたと言ったと思うのですが、実は僕の場合は、3日間のうち1日しか行けなくて、2日目に出国しました。楽しめたかという捉え方によって違うと思いますが、僕は1日参加しただけでもすごく楽しかったです。というのも、先ほどご紹介した通りトランスユーラシアのいろいろな国々から出店されていて、ハンドメイドで作られた商品や、実際に写真を一緒に撮ったりしてどういう暮らしをしているのかななどを直接聞けたので、そういった観点からすると、アルマトイという都市でナウルズという大きなイベントに参加できたということ自体が、本当にすごく意義があったのかなと感じています。

宗野 ありがとうございます。他に聞いてみたいこと、コメントなど、いかがでしょう。

参加者 質問です。昼間はたぶん交通機関に乗って自由に行動してらっしゃったと思うのですが、夜危ないなど治安の状況が聞きたいです。

柴田 昼間は人もたくさんいて日本と変わりはないと思います。夜もよく自分は1人で劇場に行ったりジャズクラブに行ったりして、家に帰るのもタクシーで帰っていましたが、特に危険な感じはしないです。というか、ラマダンが始まると夜に出歩いている人も多いので、街中は結構にぎやかです。そんなに心配なくていいと思います。以上です。

参加者 ありがとうございます。

宗野 時間も押し気味ですので、先生方はいかがでしょうか。何かコメントや短い質問はあるでしょうか。

白山 山本先生、どうぞ。

山本 では、私から一つだけ質問させてください。学生の皆さん、発表、ありがとうございました。山本と申します。語学研修に参加していた男子学生の方に聞いてみたいのですが、カザフスタンで国際婦人デーを体験し

たと思いますが、皆さんの中で実際に花を買ってプレゼントした方はいらっしゃいますか。

宗野 おお、みんな。いっぱいいますね。

山本 どのような気持ちだったとか、シェアしてくれるといいなと思うのですが、どうでしょう。

遠藤 花をあげるという精神的ハードルがとても低くなったので、日本でもこのように気軽に贈れたらいいのにと思いました。

臼山 なるほど、私もそう思います。

山本 では、次、いつ贈りましょうかね。

遠藤 次は、しかるべき時に贈りたいですね。

山本 そうですね。日本では国際婦人デーをお祝いする習慣がありませんので、別の機会を狙ってぜひプレゼントしてください。

宗野 皆さん、ありがとうございます。医学群の学部生を対象とした医療視察研修も昨年度から再開しました。引率教員の先生と学生がカザフスタンの医科大や医療施設を今回視察してきましたので、その皆さんから報告を頂きたいと思います。4人の方々の発表です。鈴木さん、結城さん、田崎さん、熊倉さん、発表をお願いします。



結城 これから医療視察グループの発表を始めさせていただきます。私たちは今回アルマトイとアスタナという二つの都市を訪問させていただきました。訪問の中でアルマトイとアスタナの二つの都市の違いががとても印象に残ったので、それについてお話しさせていただきたいと

思います。

まず街の構造についてです。アルマトイでは写真の通り道路が基盤の目のように張り巡らされていて、しかも、南北で傾斜があるので初めて来た人でも方角がつかみやすいという特徴があります。一方のアスタナは、こちらの写真からも分かるように高層ビルや近代的な不思議な形の建物が多く、しかも土地がすごく平坦なのでそれがとても印象的でした。



次に、日本になぞらえたときに、アルマトイは大阪、アスタナは東京に似ているな、という話があって、それがすごく面白いと思いました。街の雰囲気がアルマトイのほうが少しガヤガヤしている感じもあるんですけど、特にどちらの出身の人かでも雰囲気が違って感じました。アルマトイの方はおしゃべりでいろいろ話し掛けてくださる感じで、アスタナの方は結構スマートでクールなイメージがあって、案内して下さった2人のカザフスタン出身の方々が、片方の方がアルマトイ出身、片方の方がアスタナ出身で、その違いがよく表れていて面白かったです。

また、アルマトイという都市名がカザフ語でリングを示していて、アスタナという都市名がカザフ語で首都を表しているということも違いの一つです。

次に、お食事についてお話しします。先ほど紹介があったので、伝統的な食べ物については省略したいんですけど、私が1番気に入ったのがソバの実です。こ

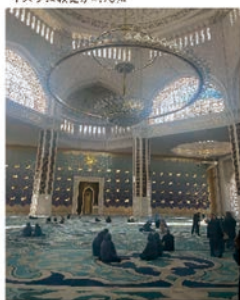


文化・宗教

伝統的な楽器ドムブラ



イスラム教徒が70%



歴史

ヌルスルタン・ナザルバエフの大統領



アルファラビ



これは名前をロシア語でグレーチカ гречка と言うのですが、ロシアをはじめとしてエストニア、ラトビア、リトアニア、ベラルーシなど旧ソ連の国々で、このソバの実を主食として食べる習慣があるそうです。私はとても気に入ったので、お土産で持って帰ってきました。

次に、文化についてお話しします。カザフスタンは多民族国家ですが、イスラム教徒（スンニー派）が70%を超えることもあって、特にアスタナにはたくさんのモスクがありました。先ほどもお話があったと思うのですが、ちょうどドラマダンの断食の時期にかぶったので、日が沈んでからは飲食店が激混みすることがあり、そのエピソードからもイスラム文化を感じました。

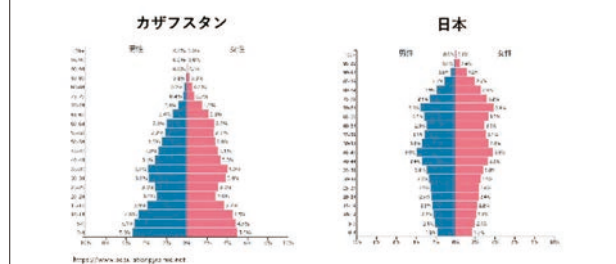
写真に写っているのが伝統的な楽器であるドムブラで、今日交換留学で発表する池添さんが持ってきてくださっているのがさっきからすごく気になっています。この楽器の面白いところは、弦を弾いて弾く部分もあれば、ボディを叩いて音を出す時もあることで、どこを叩くかによって音が違うのが面白くて、私も買って帰って練習すれば良かったと思いました。

次に、歴史についてお話しします。カザフスタンでは、さまざまなものに人名に由来した名前が付けられていて、私たちがアルマトイで訪問した大学もアルファラビ・カザフ国立大学ということで、中世イスラムの哲学者・数学者・科学者・音楽家であるアルファラビという人の名前が付けられていました。

首都のアスタナも2019年から2022年まではヌルス

ルタンという名前で、そこから変わりました。ヌルスルタンも初代大統領である写真の真ん中にいるヌルスルタン・ナザルバエフ大統領から付けられています。先ほどナウルズのお祭りに来ていたという話がありましたが、私も会ってみたいかったです。これで紹介を終わります。

人口ピラミッド(2020)



熊倉 私からはカザフスタンの医療システムについて紹介します。まず日本と人口ピラミッドを比べてみると、高齢者が少なく子どもの割合が多いことが分かります。高齢者の割合は、日本は約30%に対して、カザフスタンでは約8%です。現地の病院で話を聞いてみたところ、少子高齢化による医療従事者の不足や医療費の高騰がカザフスタンでは起きていないことが分かりました。

次に、カザフスタンに存在する二つの医療保険について紹介します。一つ目は強制医療保険で、2020年から始まりました。全ての疾患を対象にしているわけではなく、緊急外来やプライマリーケア、感染症などが適用されています。財源は労働者の収入の一部で、病院では費用はかかりません。

二つ目は社会健康保険です。先ほどの強制医療保険とは違って、専門外来が対象になっています。任意の保険のため加入した人のみが保険料を支払う仕組みで、加入の割合は約8割です。

最後にカザフスタンでの医療課題について説明します。一つ目は、対GDP費の医療支出が少なく、日本では

医療保険

- ・強制医療保険(2020年8月～)
- 対象：救急外来、プライマリーケア、結核、HIVなど
- 財源：労働者の収入のうち2%
- 病院でかかる費用：無料

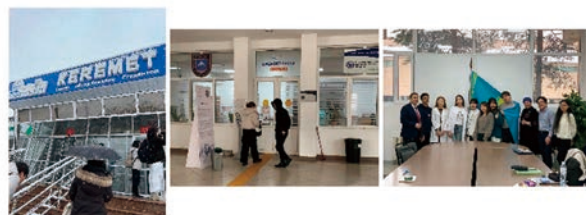
医療保険

- ・社会健康保険
対象：専門外来
財源：加入した人
費用：治療の種類による
加入割合：84%(2020)→81.3%(2021)に減少

課題

- ・医療支出が少ない
対GDP比 日本：11.0%、カザフスタン2.8%(2019)
- ・HIV、結核、肝炎など
- ・メンタルヘルス
自殺率(100人あたり)：カザフスタン18人
日本 16.8人

アルファラビ・カザフ国立大学



科学実践センター（衛生・疫学）



ナザルバエフ大学



11%なのに対して、カザフスタンでは2.8%にとどまっています。二つ目は感染症で、HIV や結核、肝炎などで亡くなる人の割合が多いことが問題になっています。三つ目はメンタルヘルスです。一年中で晴れている日の割合が少なく、それによって日光を浴びられず、そのせいで人口10万人当たりでの自殺者が日本よりも多くなっています。私からは以上です。

鈴木 次に、実際に訪れた施設などを紹介したいと思います。まずはアルマトイで訪れた大学の一つ、アルファラビ・カザフ国立大学です。

ここでは公衆衛生を学んでいる学生と一緒に講義を受けて、その後日本の医療に関するプレゼンテーションとディスカッションを行いました。また、KEREMET（診療所やコンビニが入っている総合的な学生支援センター）という学生支援などさまざまなことを行っている場所も見ました。それから病院で学生が実際に検診している様子なども見ることができました。

ここ（科学実践センター）は国立の衛生・疫学などを調査している所ですが、こちらではカザフスタンの広大な国土から出た情報をここに集約して色々と調べています。実際に、この時にはまだオープンしていなかった、PCRなどの検査を練習する施設なども見せていただくことができました。

続いては、アスタナで訪れたナザルバエフ大学です。こちらは医学部の校舎でとてもきれいでした。ここでも研究をしている施設などを見せていただくことができ、

また、実際に医学教育がどう行われているかの話を聞いて、私たちもプレゼンを行いました。ここにはシミュレーションセンターや解剖の模型などが置かれていて、とても実践的な学びができる場所だな、と思いました。

続いて、アスタナでもう一つ行ったアスタナ医科大学です。こちらでは研修医の学生と交流して、プレゼンテーションとディスカッションを行いました。国立児童リハビリセンターという場所で、ロボットを使ってリハ

シミュレーションセンター



解剖



アスタナ医科大学



Asfendiyarov カザフ国立医科大学 看護師養成学部



国立児童リハビリセンター



ビリしている様子や、工作などを使ってリハビリしている様子を見ることができました。

田崎 カザフ国立医科大学の看護師養成学部に行きました。ここは医学部以外の看護師だったり、救急救命士を目指している人が行っている所でした。印象的だったのは、下半身のマネキンが1人につき1台あったことで、すごくうらやましいな、と思いました。

これもそうなんですが、左側の写真は出産の時のシ



Asfendiyarov カザフ国立医科大学 看護師養成学部

Asfendiyarov カザフ国立医科大学 看護師養成学部



ミュレーションができるマネキンやはさみなど、器具がいっぱい置いてある写真です。私は筑波大学の看護学類なのですが、そこでは4人1グループで1台のベッドを使って、80人同じ教室に入ってやる人が多いのですが、ここは10人ぐらいのクラスで、少人数編成で1人につき1台マネキンがあり、設備が充実しているな、と思いました。

右側はプレゼンを行った時の写真ですが、結構皆さん興味を持ってたくさん質問をしてくれたり、カザフについての質問に対して答えてくれたりして、とても有意義な時間を過ごせたと思います。

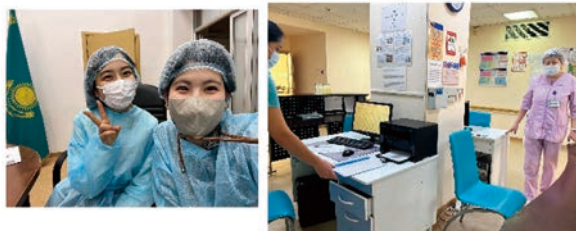
これは病院に行った時の写真です。左側のようにガウンを着て病院の中を見学しました。右はナースステーションの写真です。入院したことがある人は分かると思うのですが、日本の病院は看護師さんがたくさんいてコンピュータが並んでいてみたい印象だと思いますけど、こんなに人がいなくてパソコンも1台しかなくてみたいナースステーションを初めて見たので、すごく簡潔だと思って、違いに驚くとともに面白いなと感じました。



これはシミュレーション施設の一つです。みんな何で手を当てているかというと、脈が測れるんです。マネキンで脈や心拍が測れる物があって、初めて見たシミュレーターだったので面白かったです。

これは救急のシミュレーションのものです。左側は救

市立リウマチセンター現場見学



急車の中をイメージした部屋で、右側はICU（集中治療室）をイメージしているんですが、私は実習にはちょっと行っているだけで、救急車に乗ったことやICUに行ったことはなかったので、見たことない器具がいっぱいあって、ここで演習や実習ができるのはとてもいいなと思いました。

これは赤ちゃんが生まれる時のシミュレーターです。一番左側のお母さんはハイテクなマネキンで、呼吸に合

わせて胸が動いたり、「痛い、痛い」みたいな感じで音声聞こえてきたりして、赤ちゃんが自動で下りてきて、それに対してどう取り出すかをシミュレーションできたりします。真ん中の写真は、看護師さんが新生児に対して治療や呼吸が浅かった場合にケアをする練習をしたり、エコーの練習をできる機械もあり、練習をやらせてもらったりしてとても楽しかったです。

医学部の学生との交流の様子です。私は看護学類で、今回行ったのが医学類2人、看護学類1人、医療科学類1人で、私からすると医学類生との交流はなかなか下級生の時にはないので、この4人の中で医学類の人たちと話せたのもとても楽しかったですし、医学を学んでいる海外の学生と話ができたのもとてもいい経験になりました。

それぞれの感想

- ・ 穂城
日本とカザフスタンの医療制度・医学教育の違いに驚かされた。特に看護師の役割や、看護学校のカリキュラムに驚いた。
- ・ 熊倉
不妊治療についてプレゼンしたが、日本との違いを感じたりカザフスタンの制度について質問して多くの学びを得た。
- ・ 鈴木
日本の医療の方が発展していると思っていたが、予想以上にカザフスタンも発展していて素朴な教育が受けられる部分が素晴らしいと思った。
- ・ 田崎
あまり自分の中でイメージが大きい国だったが、実際に行ってみたら魅力的なものや学びがたくさんあった。

シミュレーション施設



シミュレーション施設



最後に、それぞれ感想を言っていきたいと思います。

結城 先ほどの写真を見ていただいて分かると思うのですが、実践的な教育設備がすごく充実していて、それがうらやましかったです。

熊倉 私は興味がある不妊治療についてプレゼンしたのですが、カザフスタンの制度も聞いてみると法律や考え方が違うと思う面があって、すごく面白かったです。

鈴木 日本の医療のほうが発展していると思っていたのですが、思っている以上にカザフスタンの医療も発展していることに驚きました。また、実践的な教育が受けられるのがいいなと思いました。

田崎 私は研修に参加する前は、カザフスタンってどこだろうというところから始まって、自分の中であまりイメージが大きい国でした。実際に行ってみたら教育も発展しているし、おいしい物もいっぱいあるし、タクシーの移動も運賃が安く、快適だし、とてもいい国だなと感じました。カザフスタンがとても好きになったので、この研修に参加できて良かったな、と思いました。以上で私たちの発表を終わりにします。

宗野 どうもありがとうございました。質疑応答とコメントの時間に入りたいと思います。いかがでしょう。皆さん、聞いてみたいことやコメントがあつたら、遠慮なく手を挙げてお知らせください。

寺尾 比文4年の寺尾です。今回取り上げられていた中で、実践的な教育という部分が、どちらかというと新生児医療に注力していると感じたんですが、日本の場合、新生児ももちろん発展はしていると思うのですが、健康を維持するのに役立つMRIなどの機器にお金を使うというカリソースが大きい部分があるのかなと思いました。そういった観点で、若い人向けの医療に注力しているとか、リソースを割いていたりするみたいな考え方の違いはありましたか。

結城 まずカザフstanは、人口ピラミッドでもあったように、子どもの数が多いのに比べて新生児死亡率がちょっと高いんですね。日本はそれと比べると医療が発達していて、新生児の死亡率はとても低いです。一方、日本社会は高齢者が多くて、その高齢者に対する医療のほうにより注力しているイメージが大きく、私たちもそういうプレゼンテーションを持っていったりもしました。しかし、現地の人からしたら、今から発展させていきたいのは、新生児死亡率をどれだけ下げられるかという医療現場の課題に力を入れている感じです。カザフstanは、現在、生まれる子どもも増えていて、教育にも力を入れているということが実際に見てよく分かった部分でもあると思います。私は周産期医療に興味があるので気づいたのですが、どれだけ死亡率を減らせるかという問題、出産や子どもの医療の課題に対して力を入れていると感じました。

宗野 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。聞いてみたいことは何かありますか。

渡部 カザフstanだと自殺率が高く社会問題になっていると今発表であつたと思うのですが、精神医療は日本と比べるとどのような感じですか。

結城 それについては今回の視察の中であまり見る機会がありませんでした。確かに気になるという感じではあ

ります。

渡部 ありがとうございます。

宗野 皆さん、特にいいですか。他にいかがですか。何か聞いてみたいことやコメントとかあつたら、遠慮なくどうぞ。

藁谷 今回の医療視察で研修した内容ではないのかもしれませんが、質問があります。日本でも生殖ツーリズムなどが問題になっていると思うのですが、カザフstanではそういったものはどのように扱われていますか。

熊倉 私も生殖医療、生殖補助医療の違いについて知りたいと思ってカザフstanに行ったんですが、一番大きく違う点が、代理懐胎という、受精卵を別のお母さんに預けて生んでもらうものがあり、カザフstanではシングルマザーの方だと結構ビジネスになっていたりしています。でも、価格の相場だとアメリカよりはかなり低くて、そういう現実があります。日本ではまだ禁止されているので、それについては倫理観も違ったりするのかなと思いました。法律ももう既に整えられているところはあるので、結構違いはあるかなと思います。

藁谷 ありがとうございます。

宗野 時間の関係もありますので、他にたぶん聞きたいことはいろいろあると思うのですが、ここで次に移ろうと思います。先生方、いかがでしょう。何か短めのコメントなどがありましたら、お願いします。

白山 出発前のカザフstanのイメージと実際に現地を訪れ、そこで体験した現実が大きく違っていたことを実感できたこと、相対化できたこと、それが1番皆さんにとっての大きな学びだったのではないかという気がします。それからぜひ、同学年でも先輩でも後輩でもいいのですが、医学・医療研修の体験談を伝えていただきたいなと思います。また来年もやりますので、ぜひ今年度よりも多い7、8名は連れていきたいと思っています。それ以上は無理ですかね。7、8名が限界ですかね？

小林 あの、引率の体制を強化しない限り、6名が精一杯です。

白山 失礼しました。6名が限界だそうです。じゃあ、あまり宣伝しなくていいです。(笑い) 私のコメントはそれぐらいです。とにかく皆さんの仲間たちに海外医療研修の情報を提供してほしいと思います。

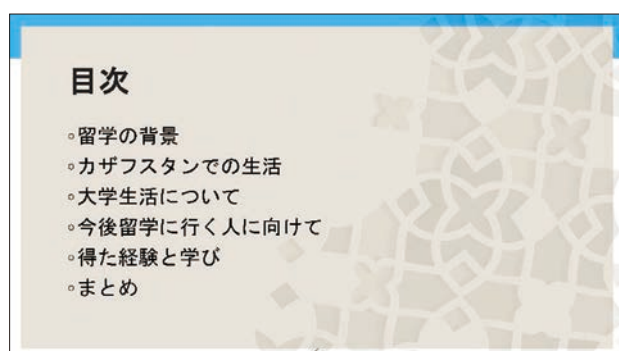
宗野 ありがとうございます。では、皆さん、ありがとうございました。(拍手)

そうしましたら、続いては短期交換留学生として昨年3月から1年間、アルファラビ・カザフ国立大学に留学

していた3名の発表になります。1人目は赤坂さんです。
お願いします。

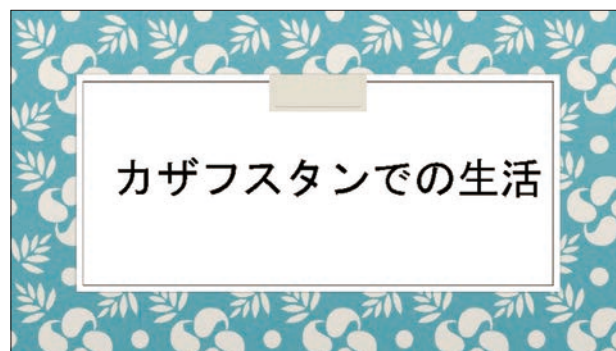
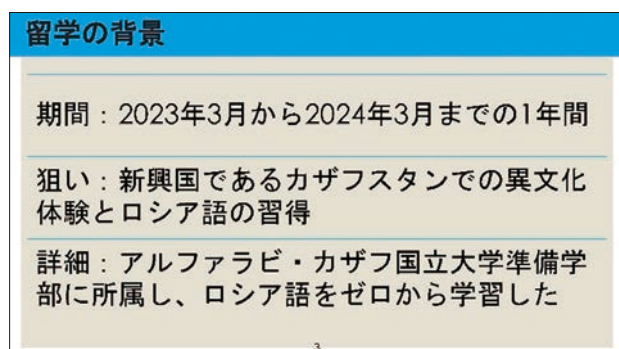


赤坂 皆さん、こんばんは。人文・文化学群人文学類4年次の赤坂幸亮と申します。僕からは「未知の地カザフスタン：海外留学の驚きと学び」というタイトルで発表させていただきます。これが目次です。



今回僕が留学することになった背景ですが、期間としては、先ほどご紹介された通り2023年3月から2024年の3月までの1年間でした。狙いとしては、新興国であるカザフスタンの異文化体験とロシア語の習得という2点です。詳細としては、アルファラビ・カザフ国立大学の準備学部 に所属し、ロシア語をゼロから学習しました。

「カザフスタンの雄大な大地」で、どこまでも続く、わけではないのですが、山がこのような感じであって、



ただっ広い平原がずっと続いています。都市から出た瞬間、このような感じの風景になっていて、気候もすごく、夏が35度超え、しかも、クーラーなし。冬はマイナス23度。こちらは暖房があります。外に出ると髪の毛が凍ったりして、試しに普通のタオルをぶん回してみたんですけど、30秒ぐらいで凍りました。



これは僕が好きだった食べ物を集めました。左端がブロフ、真ん中がラグマン、こちらがシャシリクという肉料理になります。どれもカザフスタン固有の料理ではないのですが、中央アジアでよく食べられている料理です。とても美味しいです。

左側がアルマトイ市内の風景で、パンフィロフ公園といます。独ソ戦の時にモスクワの戦いで活躍したカザフ人たちをたたえる巨大なモニュメントがあります。これが、先ほど誰か紹介したと思うのですが、ゼンコフ教会という、パンフィロフ公園の中にあるロシア正教会



の中です。このような感じで豪華で美しい正教会の様式になっています。



僕はアルマトイ市内で、何をして遊んでいたかというと、サッカー観戦とかオペラを観に行ったりしました。結構何かをよく観に行っていました。どれも、聞いた話なのですが、政府から補助金が入っているみたいな感じで、一般のお客さんに安くチケットを販売しています。この試合も 500 円ほどで観ることができました。

大学生活について

- ・ロシア語の授業は基本的に全てロシア語で行われる
- ・毎朝8時から始まり12時くらいには終わるため、午後は自分の好きなことをすることができた。
- ・自分で探せば、他の学部 of 講義を聴講することもできる。

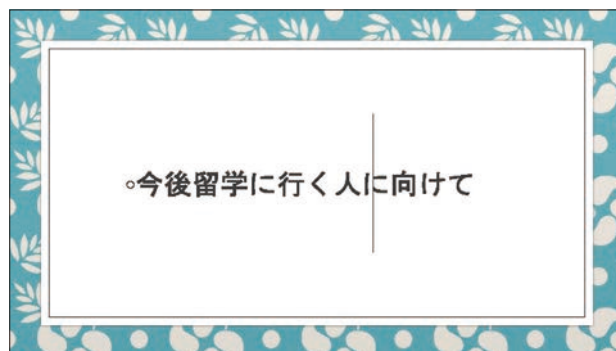
次に、大学生活についてですが、ロシア語の授業は基本的に全てロシア語で行われていました。ダイレクトメソッドです。僕はゼロからだったので、先生が何を言っているか本当に分からず最初は本当に大変でした。毎朝8時から始まって12時くらいには僕のクラスは終わっていたので、午後は自分の好きなことをしていました。例えば、町を散歩してみたり、カザフ人の現地の学生と

どこかに行ってみたり、日本人の学生たちと料理を作ったりしていました。

留学生でも受けられる授業を自分で探したりしたら、他の学部の講義に英語とかもあったので、それを聴講することもできました。

・1日のスケジュール例		
時刻	行事	場所
7時30分	起床	寮
8時	ロシア語の授業開始	大学（準備学部）
12時	授業終了	大学（準備学部）
12時30分	昼食	大学の食堂
13時	バザールで買い物	バザール
15時	帰宅→自由時間	寮
17時	友人と夕飯の準備	寮のキッチン
18時	夕飯	寮
19時	自由時間	寮
22時	就寝	寮

これは僕のだいぶ真面目な時のスケジュールです。7時半に起きて、8時から12時までロシア語の授業に行きます。昼食を食べて、バザール（市場）に行って、新鮮な果物など売っているのをそれらを買って、3時に帰宅してからは自由時間で勉強などをしていました。日本人の学生と僕は自炊していたので、5時から夕食の準備をしてご飯を食べて、予習や復習などに時間を使って10時には寝るみたいな、こういう生活をしていました。



今後留学に行く人に向けてですが、脅すようなことを言ってしまうのですが、長期でカザフスタンに行く場合は、ある程度ロシア語をやっておくとやっぱり楽だなと思います。僕は本当にゼロからで、トイレと水という単語だけ覚えていったのですが、最初は結構厳しかったです。

白山 それはそうですね。

赤坂 「おまえは何でロシア語が分からないのに来たんんだ？」と教授に言われて泣きかけたんで。これも本当に言いたいのですが、どれだけ気を付けていても体調は向こうで崩します。向こうだと薬の効果が強過ぎて、頭

今後留学に行く人に向けて

- 長期でカザフスタンに行く場合、ある程度ロシア語を勉強してから行くとかかなり楽！
- どれだけ気をつけていても体調を崩すことがあります。自分が飲み慣れている薬は多めに持っていこう！（カザフの場合ビタミン剤が高価なので持っていくことをお勧めします）
- トラブルはつきものです。何が起こっても対応ができるように身構えておきましょう。

12

今後留学に行く人に向けて

- 僕が経験したトラブル集
 - ・クレジットカードの紛失（その後見つかりました）
 - ・突然寮を追い出される。
 - ・食中毒になって救急車を呼ぶ。
 - ・留学延長のビザの発行手続きに2ヶ月かかる。
 - ・帰国便が突如欠航して、1日早く帰る羽目になる。（最後にお別れを言えなかった人多数）

13

得た経験と 学び

ロシア語を日常会話レベルで
操れるようになった

中央アジアの歴史と文化への
理解を深めることができた

異文化理解と人間力の向上

痛薬や解熱剤を飲んだら体温が2、3度下がるみたいな極端な感じの薬が多いので、できれば自分が飲み慣れている日本の薬を持っていくといいと思います。あと、ビタミン剤。向こうは野菜を食べるところがあまりなく、ビタミン剤が必要だと思うので、日本からビタミン剤を持っていっておくとすごくいいと思います。それから、トラブルは付き物ということです。僕が経験したトラブル集です。一発目、クレジットカードをなくしました。見つかったのですが、クレジットカードは2枚ぐらい持っていっておくいいと思います。夏休みに突然「おまえ、今日出ていけ」と言われて寮を追い出されるという事件が起きて、1カ月間急にホームステイになっちゃったりとかもありました。あと、これが一番きつかったのですが、食中毒になって救急車を呼ぶということもありました。本当に意識が飛びかけて色々大変でした。生肉というかギョーザをつくるのは、やめたほうがいいかもしれないです。

留学延長のためのビザの発行手続きは2カ月かかります。僕は半年の予定だったのですが、留学期間を1年間に延長しました。延ばしたいという人がいたら早めに手続きに取り掛かるようにしたほうがいいと思います。最後は本当にイレギュラー過ぎるのでどうしようもないのですが、こういうこともありました。

ちょっと巻きで話します。留学生活で得た経験と学びです。ロシア語をゼロから始めたのですが、1年間いたらさすがに日常会話では困らないレベルでしゃべれるようになりました。中央アジアの歴史と文化への理解を深めることができて、異文化を楽しんだり、より深く知ることができました。自身の人間的な成長にもつながったかな、と思います。

まとめ

◦カザフスタン留学のまとめ

15

まとめです。僕は本当にゼロからロシア語を始めたのですが、カザフスタンでロシア語を学習した経験は、ゼロから始めて何かに挑戦することの貴重さと、それを達成した時の喜びを教えてくださいました。その経験を生かして、今後の人生においてもどのような局面でも臆することなくいろいろなことにチャレンジしていきたいなと思っています。

まとめ

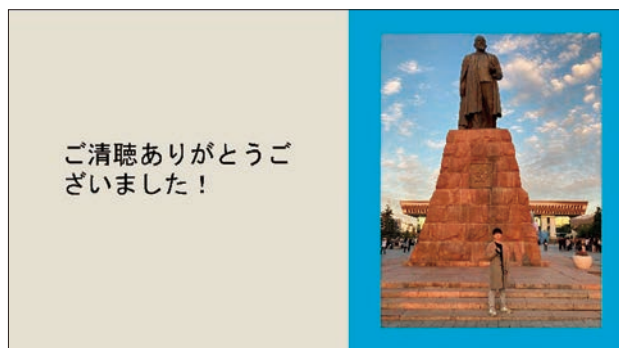
◦カザフスタンでロシア語を学習した経験は、ゼロから始めて何かに挑戦することの貴重さ、そしてその喜びを教えてくださいました。その経験を活かし、今後の人生において、どんな局面でも臆することなくチャレンジしていきたいと思う。

◦カザフスタンでの一年間の滞在は、新しい経験に満ちたものだった。日常生活や社会習慣、食文化など、日本とは異なる環境に適応するために努力した。地元の人々との交流を通じて、彼らの文化や考え方に触れることができ、自分の視野を大きく広げることができた。

16

カザフスタンでの1年間の滞在は、本当に未知の体験、新しい経験に満ちたものでした。日常生活、社会習慣、食文化、全てが異なる環境に適応するために本当に日々努力をしていました。地元の人々との交流を通じて

いろいろな考え方に触れて、自分の視野という面でも大きく広げることができました。以上になります。ご清聴、ありがとうございました。



宗野 赤坂さん、ありがとうございました。それでは、次は寺尾さん、お願いします。

寺尾 比文4年の寺尾優汰です。「ユーラシアの結節点における他民族の融和」というカッコいいテーマを付けて発表させていただきます。

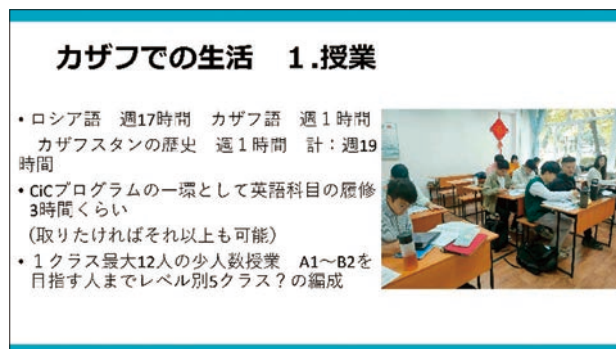


この写真は、先ほど赤坂君がマイナス23度と言っていたんですけど、それを超えようと、とにかく寒い所に行きたいと言って、北の方に行って、川をこのような感じで氷が流れていく様子を捉えた写真です。マイナス35度ぐらいです。勝ちました。(笑)

カザフでの生活は、皆さんが発表されていたので飛ばします。多民族国家の苦悩、中央アジアの経済的中心と

してのカザフスタン、文化地理学的視点から見たカザフスタンと、企画の趣旨と外れたような発表してしまうかもしれないのですが、やっていきます。

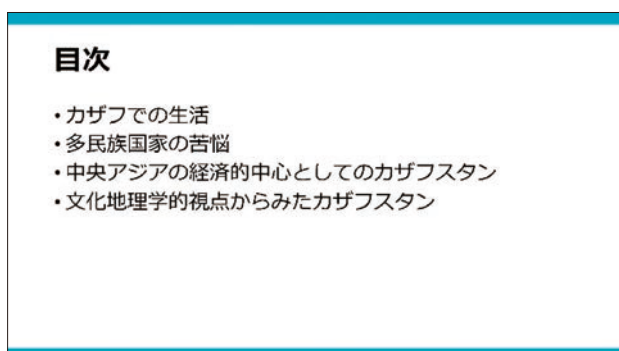
授業はスライドの内容のとおりです。



これは寮です。われわれが追い出されたおかげで、その間にリフォームがかり、普通にきれいになったんですけど、部屋のタイプやシャワールームはこのように感じで、少し明るくなりました。長期で行く人はこのような所に5,000円で住めるので、お勧めです。

多民族国家ということです。先ほども多民族、多民族と言われていましたが、カザフスタンには130の民族が暮らしていると、先生が言っていました、本当かどうか分からないですけど、それらの民族のうち、特にカザフ系がメインで7割ぐらいと、次にロシア系が大きいということです。

その中で今、前のヌルスルタン初代大統領が掲げたように、カザフ語によって国内の民俗融和を目指しているとかカザフ語化が進められています。現在でもまだ地域による話者の偏りがあったり、そもそもロシア系、カザフ系という問題ではなく、家庭の問題とか、ロシア語の学校を出るかカザフ語の学校を出るかという、そういった複雑な問題が絡んでいる中で、間違ったナショナリズムが高揚してしまっているということが多民族国家の苦悩なのかと感じていました。



多民族国家

- 130の民族
- 特にロシア語話者とカザフ語話者
- カザフ語により国内融和を目指す
- 一方、話者の地域による偏り。人種ではなく家庭による点。
- 言語パトロール。南部や外国から北部への移住支援。



文化地理学的にみたカザフスタン

- 同じような街並み
 - 都市の成り立ちが同じ。街並みは政治体制によるものだけではない？
- 歴史ある地域は建物である程度見分けられる
- ゴーストマンション多数。不動産バブル状態...？



特にロシア語がしゃべられているのが北部のこら辺のエリアです。僕はセメイとパヴロダールに行ったんですけど、セメイはロシア語とともになぜかカザフ語が結構しゃべられているんですけど、パヴロダールに行くと本当にみんなロシア語になります。カザフ系でもロシア語をしゃべっててすごく不思議です。

「何でおまえはカザフ人なのにロシア語をしゃべらないんだ？」というナショナリストたちが結構いて、そういった言語パトロールが過激化しています。これには現在のトカエフ大統領も懸念を示しているぐらいで、何でそういうナショナリズムが起こってしまっているのだろうという点は興味深かったです。

そうは言いつつも、トカエフ大統領も北部の分離・独立を防ぐために南部や外国、特にキルギスなどからカザフ系の移民（オラルマン）を北部に入れて、そこで新しい事業を興したり移住の支援をしたりしているところです。この前NHKの番組でもやっていて、カザフ人の友達からも聞いたんですけど、ロシア系というだけでカザフの中での居場所がないというか、何でロシア語をしゃべっちゃいけないんだみたいな、そういう感覚を持っている人がある程度いるという現状があります。

続いて、ユーラシアの結節点ということで、これは経済的な面からなんですけど、現在、対露、対中、対欧米というバランスを取った外交で脱ロシア依存を図っています。今度5月に日本と中央アジア5カ国のサミットもカザフスタンで行います。カザフスタンはやはり中央

アジアの中でも中心的な立場になっていて、今度、日本の岸田首相が来るのもアスタナです。

ただその半面、脱ロシア依存となっているんですけど、オイルメジャーとかが結構乗り込んできていて、僕は先ほどの地図にもあったアクタウというカスピ海に面した港湾都市にも行ったんですが、ここにある会社は、確かにカザフの会社もあるんですけど、石油メジャーなど外資の会社が利権を押さえていて、その利益を全部外国に吸い取られている構造があるというのをアクタウの人から聞きました。そういった現状があることも勉強になりました。

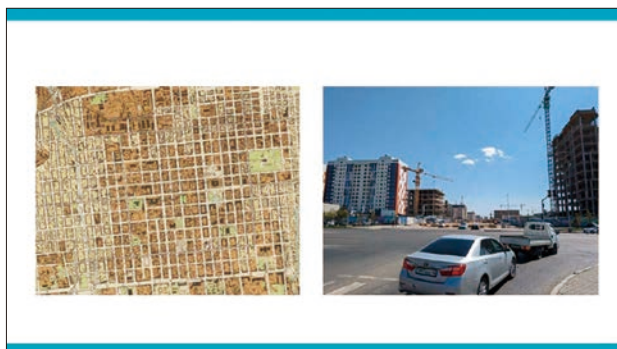
「労働者の目指す先として機能」というのは、僕はタクシー運賃である程度物価を測れるのではないかと中央アジアに行ってみて感じました。アルマトイはやはり高いです。ウズベキスタンに行くと安いし、タジキスタンに行くと安いし、キルギスに行くと安いです。でも、一番下はやはりタジキスタンで、キルギス、ウズベク、カザフスタンみたいな感じで、そういったユーラシア経済連合の中での経済格差がある中でタジキスタンに行った時に、タジク人の友達に「カザフスタンから来た」と言うと、「僕は今、カザフで働くためにロシア語を勉強しているんだ、と話してくれて、その後、カザフスタンである程度ロシア語でも働ける実力を付けたら、今度はモスクワに行くんだ」と言っていました。そういうユーラシアの結節点というか、ヨーロッパから中央アジアまでを結ぶ中で重要なバランスを取る位置にあるのかなと感じました。

もう一つ経済的な面で驚いたのは、マイクロビジネス（一人または少数で行うビジネス）をする人の多さです。中小の事業者というか自分で自分のビジネスをやっている人がかなり多く、友人たちもお母さんは自分で不動産をやっていたりネットで何かやっていたり、ビジネスをやっている人が多いことが驚きでした。

これはおまけで自分の専攻に結び付けて書いたんですけど、カザフスタンはどこでも一見して同じような街並

ユーラシアの結節点

- 対露・対中・対欧米バランスを取った外交で脱ロシア依存
→資源の輸出先多様化。一方で、外資に利益奪われる構造
- 労働者の目指す先として機能
背景にはEEU内での経済格差
- マイクロビジネスの多さ



みに思えます。しかし、都市部の成り立ちは、「歴史ある地域は建物である程度見分けられる」ということです。次のこの地図ですが、これはアルマトイの昔、1960年代くらいの地図で、博物館で見持ってきた。均等に幅が守られている碁盤できれいなんです。これが郊外に行くと、確かに碁盤の目ではあっても均等さがどんどん薄れていったりとか曲がった道になったりするのが特徴です。このような均等な所を見つけると、どこの地域に行っても旧市街が一発で見分けられるのは、地理的な見方という面白いところかなと思いました。

もう一つがこの「ゴーストマンションの多さ」というところです。右側がアスタナの写真なのですが、現在でもこのようにマンションがどんどん建てられています。これがどんどん郊外へ、郊外へ車で30分、40分行かないという所までびっしり建っています。それだけあるのに、夕方になると明かりがついているマンションがほとんどありません。このようなマンションがどのような用途で買われているのかというと、投資用というか外国の人たちが将来の値上がりを見越して買ったり、カザフ国内でも1人で何部屋も持つのが当たり前という話を聞いて、そういったゴーストマンションも不動産バブルのような状況が今起こっているという話も聞きました。今後、カザフスタンの経済の重しにならないことを願います。すごく主観と伝聞によって構成された私のカザフ観なのですが、こういう学びを得てきました。ご清聴、ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

宗野 寺尾さん、どうもありがとうございました。では最後に、池添さん、よろしくお願いします。

池添 人文学類4年の池添里彩です。「私の幸せなカザフ生活」というテーマで発表させていただきます。下はカザフ語で訳したもので、Менің Қазақстандағы бақытты өмірім です。

私の幸せなカザフ生活

Менің Қазақстандағы бақытты өмірім

人文・文化学群人文学類4年
(留学先: カザフ国立大学)
池添里彩

留学期間

2023年3月17日～2024年3月8日(1年間)

カザフ到着～夏休み前まで(6月中旬まで)
→ロシア語のクラス

新学期(9月)～帰国まで
→カザフ語のクラス

留学期間は、去年3月から今年3月まで約1年間で、カザフ到着から夏休み、6月中旬まではロシア語のクラスで勉強し、新学期の9月から帰国まではカザフ語のクラスで半年間みっちり勉強しました。

留学中の住まい

学生寮→ホームステイ→マンション(一人暮らし)

ホームステイ→約20万テンゲ(約7万円)

一人暮らし→約20万テンゲ(約7万円)

留学中の住まいは、最初は学生寮で1カ月ぐらい、次にホームステイが1カ月、町の土地勘が分かってきたのでマンションで1人暮らしを始めました。ホームステイだとお金は約20万テンゲで、日本円だと約7万円です。1人暮らしも同じくらいで、20万テンゲ、約7

万円で、電気・ガス・水道がプラス1万テンゲ付くぐらいです。

授業以外でやっていたこと

①会話クラブや交流イベントへの参加

会話クラブとは？

→現地の東洋学部日本語学科の学生との言語交換クラブ。
週に1〜2回程度。

他にも、遠足や日本センター主催のイベントも！



ここからは授業以外で自分が頑張っていたことを話したいと思います。私は会話クラブや交流イベントに積極的に参加しました。会話クラブは現地の東洋学部日本語学科の学生との言語交換クラブで、週に1、2回程度あります。他にも日本語を学んでいる学生との遠足や、日本センターがカザフスタンにもあって、日本語を学んでいる大学生やいろいろな所から来ている学生さんがいて、その学生さんとの交流イベントにも参加していました。

授業以外でやっていたこと

②カザフスタンの伝統楽器、ドンブラ

最初は大学のサークル→9月から個人レッスン

- ・半年間で7つのドンブラ楽曲(күй)を習得
- ・恩師のグリダナ先生とは一番の言語パートナー
- ・私の大好きな大切なお姉様♡



二つ目がカザフスタンの伝統楽器ドンブラです。ドンブラを弾けるようになるように練習を頑張っていました。最初は大学のサークルに所属して週1回ぐらいやっていたのですが、9月からは個人レッスンでグリダナ先生と一対一でやっていました。半年間で7つのドンブラの楽曲を習得できたとか、ドンブラをこの先生からは習うだけではなくて、1番の言語パートナーとして、日本語が通じなくて、ロシア語とカザフ語でずっとしゃべっていて、カザフ語を学び始めてからは特にグリダナ先生とよく話したことで、カザフ語がすごく伸びたと感じています。

実は、推し活も頑張っていました。この人は Moldir Auyelbekova さんというカザフ人の歌手で服のブランドも立ち上げていて、これは彼女の服のブランドのお店

授業以外でやっていたこと

③推し活！！！！

私の推し☆

「モルディル様」(Moldir Auyelbekova)

・カザフ人の歌手 ・服のブランドも立ち上げている

→カザフ語学習の強いモチベーションに！



に行って彼女に会った時の写真です。やっぱり推しができる、カザフ語学習の強いモチベーションになりました。今でも追いかけています。

1年間の留学で大変だったことは、今はこのようにカザフ、カザフしているのですが、来たばかりのときは本当にすごく大変でした。初めての環境だし、両親や友達もいないという孤独な状態で、ゼロからの人間関係が始まっていく留学生活でした。

留学で大変だったこと

やっぱり来たばかりの時は大変...！

- ・初めての環境。両親や友達もいない
- ・言語の問題
- ・食文化なども違うからか、最初は結構体調を壊すことも

→でも大丈夫！必ず慣れてきます！



言語の問題もありました。日本でロシア語をある程度勉強して行っても、大学で習ったロシア語と、現地の会話のロシア語とはまた違ったりして会話表現など生活をしていく中で大変だったとか苦労したみたいな思いを重ねて、こういうふうに言えいいんだなということをどんどん習得してきました。食文化も違うからか、最初は体調を崩してしまうこともありました。アドバイスとして言えるのは、長期の留学だとしても必ず慣れるので、

留学して良かったこと

- ・やっぱり言語は上達する！（習得も早い！）
- ・大切な推しや先生方、かけがえのない仲間ができた！

私が大事にしていたのは「積極性」

→交流の機会などへの積極的な参加

→自分を積極的にアピールする



根気よく頑張りました、ということです。

留学して良かったことは、言語は話されている地域に行くこと上達するし、習得も早いということです。大切な推しや先生方、かけがえのない仲間ができたことが良かったです。私が留学中に大事にしていたのは、積極性です。交流の機会など言語を使う機会に積極的に参加しました。また、自分を積極的にアピールするとすごく評価されるので、シャイにならずに「ここは私が発表します」「私からやります」など積極性の大切さを学びました。

最後に、カザフスタンの伝統楽器、ドンブラの紹介をしたいと思います。こちらがドンブラで、2本の弦でできています。ちょっと音を...

<演奏 01:32:09 ~ 01:33:56 >



池添 カザフには素晴らしい伝統楽器があって、でも、驚くのはカザフ人がみんな弾けるというわけでもなくて、弾ける人は小学校からやっていたみたいの方がいるのですが、人によっては弾けない方もいて、外国から来て弾いている子がいるとすごくびっくりということもあるそうです。以上で発表を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

宗野 池添さん、どうもありがとうございました。それでは、質疑応答やコメントの時間に入りたいと思います。短期交換留学生としてカザフスタンに滞在されていた3人の学生の皆さんに何か質問やコメントがあったらよろしくをお願いします。

参加者 お話ありがとうございました。主に池添さんに伺いたいです。カザフ語の授業を受講されていたということなのですが、カザフ語の授業のレベルや周りの学生さんの雰囲気について教えていただけますと幸いです。

池添 カザフ語の授業は、私のクラスがすごく特徴的で、本当は私みたいに外国からカザフ語を学びに行っている学生さんが多いのですが、私のクラスでは8人中5人が中国の新疆ウイグル自治区から来たカザフ人

の学生さんで、その学生さんたちは、カザフ語で会話は普通に流ちょうにできるのですが、カザフ国立大学など他のカザフ国内の大学に入るために、大学入試対策として、カザフ語の正しい文章の書き方や正しい文法事項を理解できることが求められていて、そういう学生さんが、カザフ語の能力を高めるために入っていました。その子たちは会話がすごく上手だったので、私もその子たちと一緒に学んだことでカザフ語も上達したのではないかなと感じています。

白山 新疆ウイグルのカザフ人の学生ですか。

池添 そうです。カザフ人です。

白山 中国の新疆ウイグルのカザフ人が使うカザフ語は、アラビア文字で、カザフスタンのカザフ語はキリル文字です。文字が異なり、語彙や文法も多少違うと言われています。その意味で、新疆ウイグル出身のカザフ人にとって、新しいカザフ語を学ぶということですね。彼らの一部がオラルマン（カザフ語で帰還人）としてカザフスタンに帰化するのでしょうか。

池添 どの学生さんもアルファラビの学部に進むことやカザフに定住して家族も呼ぶことを目標にして学んでいる学生さんが多かったです。

白山 カザフスタン政府によるカザフ人の比率を高めるという民族政策の一環だと思います。

宗野 いかがでしょう。他に何か質問やコメントはありますか。

藁谷 ありがとうございます。交換留学に行く前のロシア語はどの程度しゃべれたのか、どのくらい前から準備したのかをお聞きしたいです。

宗野 皆さん3人にですか。では、池添さんからお願いします。

池添 私の場合は、大学に入ってからずっと第2外国語でロシア語を取っていて、2年次が終わった段階で3年次から留学をしていたという感じなので一応、初級の文法、格変化までは授業の中で終わっていたのですが、それ以外の文法事項は向こうに行きながらや直前の春休みに勉強しました。一応ロシア語を学習するための参考書としていい文法書を持っていたので、その文法書を持って行って現地でも勉強していました。

赤坂 僕は12月に留学が決まって、さすがにキリル文字が読めないのはやばいと思ったので、1月にキリル文字を勉強して自己紹介ぐらいい言えるようになり、2カ月くらい勉強してから行きました。

白山 どれくらいできるようになりましたか。

赤坂 最終的には、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）

と接していて「今、急いでやらなきゃ」みたいに言う。「急ぐな。急ぐな」と言われるのです。カザフ語で Асықта, ロシア語だと Не торопись ということ言われて、私は常にあくせく忙しくしていないと気が済まないとか、何でも完璧を求めてしまう性格だったのですが、そういうカザフ人の精神から、もう少し気楽にして生活してみてもいいのではないかなと思うようになって、そこから自分の精神状態もすごく良くなって、留学はとてもためになったなと感じています。

白山 素晴らしい話ですね。

宗野 皆さん、どうもありがとうございます。まだまだいろいろと話したいことはあると思うのですが、この報告会だけではなくて皆さんが聞きたいことはお互いに聞いて情報交換をしていただければと思います。

では最後に、本年度の医療視察研修を担当された医学医療系的小林佑介先生から閉会のごあいさつを頂きます。よろしくお願いします。

小林 皆さん、こんばんは。医学医療系産科婦人科学で仕事をしています小林と申します。医学系の国際交流委員長もさせてもらっています。

皆さん、本当にお疲れさまでした。まずは元気に帰ってきていただいたということがすごく良かったと思います。私は今回4人の医療系の学生さんを連れて10日間行ってきたのですが、このカザフスタンの研修は、本当に色々、生活も違うし、文化も違うし、環境も違うしということで、僕自身が非常に勉強になった10日間でした。

今の皆さんの発表を聞いていて、本当に皆さんがすごく誇らしげにご自身の経験を語っていただいたことは、僕にとっては非常に印象的でとても良かったなと思いました。一方で、発表の中で少し言及されていましたが、おそらく楽しいことばかりではなかったと思います。正直辛い時とか嫌な時とかもあったかと思います。それから、自分の能力は何でこのようにならないんだろうとか、何でこれを話せないんだろう、何でこれができないんだろうということを、皆さん一人一人が、一時期感じたこともあったのではないかなと思うんです。ただ、それって別に悪いことではなく、むしろすごくいいことで、今回カザフスタンに行き、留学生活を送る中で、試行錯誤を重ねながら、皆さんは自分を知ることができてきたのだと思います。それはカザフスタンという国とか文化とか、違う人たちを知ることで自分たちが何者かとい

うことが分かって、あとは自分の弱いところもたぶんこの研修の中で分かったのだと思います。

これから皆さんが社会に出る時にすごく大事なことは、社会で活躍できる人はどんな人なのかな、と考えると、すごく一生懸命仕事をする人はもちろん活躍できるのだけれども、大事なことは自分のことを知っている人がたぶん一番強いです。ですから、皆さんは今回カザフスタンに行かれていろいろな経験をした中で自分を知ったということがきっとこれから皆さんの生活の中で、また社会に出た中できっと自分自身をサポートしてくれる大きな力になると思います。

一番大事なことは、実は皆さんがカザフスタンの研修の中で自然にいつの間にか身に付けたことは何かと言うと、チャレンジしてエンジョイしたということです。人生は1回しかありませんから、いろいろなことにチャレンジして楽しむことがすごく大事だと思います。

今回のカザフスタンの色々な研修を糧にして、たくさんの良き思い出と、つらいこと、嫌なこともあったかもしれないけれど、それらをバネにしながら、そして糧にしながら、残りの学生生活と社会に出た時に、是非また新しいものにチャレンジしてエンジョイしていただければと思います。本当にお疲れさまでした。(拍手)

宗野 小林先生、どうもありがとうございます。

それでは、最後に少しだけ紹介をさせていただきます。本日こういうこのようなチラシを皆さんにお配りしています。今日の報告を聞いてさらに関心を持たれた方もいらっしゃるかと思います。ここには今年度NipCAプロジェクトで実施する予定の留学プログラムについて書かれた情報が入っていますので、関心がある方はぜひ熟読してNipCAプロジェクト事務局まで遠慮なくお問い合わせください。よろしくお願いします。

また、アンケートもよろしくお願いします。2種類あって、こちらはQRコードで入って答えてもらうものと、紙媒体でも回答できるアンケートをお配りしています。ぜひ回答して帰りがけに提出してください。アンケートを答えてくださった方には、後ろのテーブルにあるボールペンを差し上げますので、アンケートに答えてぜひボールペンも持ってってください。

それでは、これをもって帰国報告会を終わりたいと思います。皆さん、どうもありがとうございます。(拍手)



キルギス日本センター近辺の風景



2023年夏季



キルギス共和国日本センター ロシア語1カ月スキルアップコース

現地プログラム期間：2023年8月21日～9月15日（26日間）

対象： 日本の大学でロシア語を主専攻、または第二外国語として学んでいる学生



ロシア語を公用語とするキルギス共和国は、国土の4割が標高3千メートルを超える自然が美しい

内陸国です。その首都ビシュケクの、JICAプロジェクトが支援するキルギス日本センター（KRJC）が、キルギス国立総合大学(KNU)の外国人向けロシア語学科と協力し、ロシア語1カ月スキルアップコースを開設します。20泊のホームステイ、現地の学校訪問、生徒・大学生との交流、国際協力の現場視察等も通じ、生きたロシア語を存分に学び、キルギスの人とのつながりが広がる機会を提供します。

プログラム概要

- ロシア語：58時間（2クラス同時開設）
初級（TRKIA1レベル）
中級（TRKIA2レベル）
- キルギス語入門コース：8時間
- ホームステイプログラム：20泊
- キルギスの学校訪問、キルギス人生徒や大学生との交流プログラム
- 国際協力の現場視察
- （オプション）イシクル湖ツアー

・最小催行人数8名、最大20名
（*申し込みのある全ての大学からの参加者合計数）
・プログラム参加費：一人当たり\$1285～\$1410
（渡航費を除く。合計参加者数により変動）

申し込み方法

キルギス日本センター指定の申込用紙による大学経由での申し込み

申込締切：2023年5月31日

（*学生個人からの直接の申し込みは受け付けておりません。）



キルギス日本センター近辺の風景



世界遺産 プラナの塔



イシクル湖

2024 年夏季 キルギス日本センターロシア語 1 カ月スキルアップコースのご案内

2024 年 3 月

キルギス共和国日本人材開発センター

キルギス共和国日本人材開発センター（略称キルギス日本センター、KRJC）は、日本・キルギス両国政府の合意により 1995 年に首都ビシュケクに設立された、キルギス共和国の公益法人です。JICA が 2003 年から、また国際交流基金が 2013 年から支援を継続しており、国際協力・交流の現場でもあります。

2023 年夏、KRJC は 8 つの大学から 22 名の学生を迎え、第 1 回ロシア語 1 カ月スキルアップコースを成功裏に開催しました。現在、第 2 回コースが進行中で、2024 年 2 月 26 日～3 月 21 日まで、6 つの大学からの学生が参加しています。

今後のプログラムとして、第 3 回目となる、「2024 年夏季 KRJC ロシア語 1 カ月スキルアップコース」について以下のとおりご案内させていただきます。

- 期間：2024 年 8 月 19 日（月）から 9 月 13 日（金）の 26 日間
- 対象者：ロシア語を主専攻、または第二外国語として学んでいる日本の大学の学部生、大学院生
- レベル：TRKI (TORFL 英語名称 TORFL: Test for Russian as a Foreign Language) A1、A2 レベル

キルギス共和国はロシア語を公用語としており、その首都ビシュケクでの学びは、キルギスの歴史、遊牧やイスラムに根差した文化、雄大な自然に触れる絶好の機会を提供します。ロシア語授業、20 泊のホームステイ、現地の学校訪問、生徒・大学生との交流等を通じ、生きたロシア語を存分に学び、ネットワークを築く場を提供します。また、国際協力の現場視察や、関係者との交流等を通じ、国際協力についての理解を深める機会も設けます。

本コースに参加をご希望される学生におかれては、所属大学の担当窓口にコンタクトをお願い致します。申し込み方法は、大学経由での申し込みとしており、学生個人からの直接の申し込みは受け付けておりません。大学からの申し込み受付締め切りは、2024 年 5 月 20 日となっております。参加学生の皆様には、その後詳細情報につき、ご連絡差し上げます。

未知の地、中央アジアのキルギスで、学生たちが安心して個々の目的を達成できるよう、経験豊富なスタッフが、参加学生の皆様の安全と学びのサポートに努めて参ります。皆様とキルギスでのご縁を、スタッフ一同、心より楽しみにしております。ロシア語学習者にとって、中央ユーラシア、天山山脈を見上げるビシュケクの街での貴重な機会を、是非ご利用ください！

* ご参考：2023 年夏季 KRJC ロシア語 1 カ月コース開催結果については、以下の JICA HP 記事および K R J C を YouTube をご参照ください。：

中央アジア、未知の地での新たな一歩： キルギス日本センターロシア語スキルアップコースを開催しました。 | JICA

KRJC 1 month Russian Language skill-up course, Spring-2024 (youtube.com)

* キルギス共和国日本人材開発センター（KRJC）について

・「日本人材開発センター」は、市場経済移行国における「顔の見える援助」として、またビジネス人材育成と日本との人脈形成の拠点として構想され、2000 年より順次開設されてきました。これまでに東・中央アジア、東南アジア地域の 9 ヶ国に 10 センターが設置され、ビジネス人材育成、日本語教育及び日本との各種のネットワーク構築を支援しています。その内 7 ヶ国 8 センターに対して、JICA は支援を行っています。

・KRJC は、1995 年に両国政府の合意に基づき、首都ビシュケクに設立されました。キルギス国立総合大学の中に位置する、キルギス国の法律に基づく公益法人で、JICA が 2003 年から、また国際交流基金が 2013 年から支援を継続しています。「キルギスと日本の様々な組織や人々を互恵的に結びつけるプラットフォーム機能の強化」を組織目標に、ビジネスコース、日本語コース、相互交流促進を活動の柱としています。

KRJC 日本語 HP：[KRJC - キルギス日本人材開発センター](#)

* キルギス国立総合大学（KNU）について

・2022 年 7 月、キルギス国の政令で、広範な自治と特別な権限が付与された 5 つの国立大学が選定されました。キルギス国立総合大学（KNU）はその一つに含まれる、キルギスを代表する総合大学です。キルギス日本センターは同大学の中に位置しており、様々な協力関係を有しています。

・TRKI（英語略称 TORFL）に関して、モスクワ国立大学と提携関係にあり、KNU における外国人向けロシア語教育は TRKI のスタンダードに基づいています。

・日本の大学とも、筑波大学、金沢大学、東京外国語大学、神戸市外国語大学等複数の交

流協定を締結しています。

・日本語教育も盛んで、KNU 附属高校から大学まで日本語専攻課程を設置。学術協定に基づく日本の大学への短期留学派遣も展開されています。

KNU ロシア語 HP : Кыргызский национальный университет имени Жусупа Баласагына (knu.kg)



担当組織 グローバルコミュニケーション教育センター

協力組織 筑波大学アルマトイオフィス

2023年度

海外研修

参加者募集！
(学群生・大学院生)

研修先：カザフスタン共和国（アルマトイ市）
CiC協定大学 アルファラビ・カザフ国立大学

特設自由科目
「海外語学研修ロシア語C」
3単位 ※学群科目

返還不要
JASSO奨学金の支給※
14万円

※所定の審査を通過した者

OR
「はばたけ・筑大生！」
による旅費支援※

10万円

※所定の審査を通過した者



多民族・多言語社会であるカザフスタンで
ロシア語圏の文化・社会の多様性について考える

- ロシア語研修
- カザフ語研修
- 異文化理解研修（学生交流、ホームステイ 等）
- 渡航前危機管理研修 等
- オプション 見学旅行（タンバルタス遺跡、チャリンキャニオン等）



- 期間(予定)： 2024年2月16日(金)～3月23日(火) (35日間、移動日含む)
- 対象： 学群生、大学院生(ロシア語未修者も応募可)
- 定員： 30名(応募多数の場合は選考します)
- 費用： 航空券、食費、宿泊費など(為替等により変動、国内旅費交通費は含まず)
 - ①「はばたけ！筑大生」やJASSOの研修費用助成がある場合 11～15万円程度
 - ②全額自己負担の場合 25万円程度
- 支援： 成績等を基に審査のうえ、研修費もしくは渡航費が補助される場合があります
- 単位： 特設自由科目「海外語学研修ロシア語C」(3単位) ※学群科目
- 受入機関： アルファラビ・カザフ国立大学 準備学部 / 東洋学部
- オンライン説明会(11月6日開催済み)の録画視聴希望者は、視聴方法をお知らせしますのでNipCA事務室にご連絡ください



応募締め切り

2023年

11月27日(月)



▼応募方法▼

NipCAのWebサイト(QRコード)から申請書をダウンロードの上、募集要項に従ってメールでご応募ください。



<問合せ・申込先>

筑波大学「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」
事務室：共同研究棟A203
TEL : 029-853-4251
Email : info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp
ウェブサイト <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>

CiC 協定大学のアルファラビ・カザフ国立大学への ロシア語・カザフ語短期語学研修（派遣）の募集

カザフスタンでの春期ロシア語研修を下記の日程で開催することになりましたので、参加学生を募集します。

【研修概要】

春季休暇期間にかかる2月から3月にかけての35日間の期間を利用し、CiC協定大学であるアルファラビ・カザフ国立大学（カザフスタン共和国、アルマトイ市）と本学が協力・連携し、同大学において、主にロシア語研修を行う。ロシア語のほか、国家語であるカザフ語の研究も実施する。また、多民族・多言語社会であるカザフスタンでの実践的な語学・異文化研修により、ロシア語及びカザフ語の運用能力を伸ばすとともに、現地学生との交流やホームステイを通してロシア語圏の文化や社会の多様性に対する理解を一層深める。

【研修内容】

- 1.研修期間：2024年2月16日（金）～3月23日（火）（35日間。移動日含む。変更の可能性あり）
- 2.研修地：カザフ国立大学準備学部および東洋学部
（カザフスタン共和国アルマトイ市）
- 3.対 象：学群学生、大学院生（**ロシア語未修者も応募可**）
- 4.研修内容：ロシア語研修、カザフ語研修、異文化理解研修、英語による特別講義の受講、渡航前危機管理研修等
- 5.単 位：特設自由科目「海外語学研修ロシア語 C」3単位
- 6.定 員：30名（定員に達し次第募集終了。応募者多数の場合、成績や志望動機等を考慮して選考を行います。）
- 7.研修費用：① 11～15万円程度（研修費用の助成を受けた場合）
② 25万円程度（全額自己負担の場合）
（航空券価格、為替等の事情により価格は変動します）
- 8.研修費用助成：審査の上で決定する。
 - ①GPA2.3以上の学生は、JASSOの奨学金14万円を支給。
本研修は、2023年度JASSO短期留学プログラム「中央アジア・コーカサス・バルト・東欧初国を対象としたマルチリンガル人材育成派遣プログラム」として助成を行う。日本人学生対象。
 - ②GPA2.3未満の学生は、令和5年度「はばたけ・筑大生！」により渡航費のうち最大10万円を支給予定。日本人学生及び正規留学生対象。

9.GPA（成績評価）の算出方法

・2年次以上の学群生は令和4年度（1年間）の成績より算出。学群1年次生については、令和5年度前期の成績より算出。

・下記表を参考に「成績評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて算出。

成績評価	A +	A	B	C	D
成績評価ポイント	3	3	2	1	0

（計算式）

$$\frac{(\text{「評価ポイント3の単位数」} \times 3) + (\text{「評価ポイント2の単位数」} \times 2) + (\text{「評価ポイント1の単位数」} \times 1) + (\text{「評価ポイント0の単位数」} \times 0)}{\text{総単位数}} = \text{「成績評価係数」}$$

*奨学金の支給には、別途書類の申請が必要です。該当者には、参加が決定した後、改めてご連絡します。

10.担当組織：グローバルコミュニケーション教育センター

11.プログラム実務支援組織：日本財団中央アジア日本人材育成プロジェクト

12.応募資格および条件：

- ・本学に在籍する正規の学群生及び大学院生
- ・渡航・滞在中の事件や事故、災害に備え、「海外渡航届出システム」への登録および、「海外安全危機管理システム（OSSMA）」および海外旅行保険への加入ができる者
- ・保護者および指導教員（クラス担任）の承認を得た上で、誓約書の提出ができる者
- ・本プログラムの目的や活動内容を十分理解し、それに沿った活動ができる者
- * 事前研修への参加・学生交流準備（資料作成等）・報告書の提出・報告会の参加等、事前／事後活動を含む。

13.応募方法

下記 URL から申請書・誓約書をダウンロードし必要事項を記入の上、下記のアドレス宛にメールで提出してください（原本は後日、事前研修時に提出いただきます）。

※申請書にある推薦者（指導教員）はクラス担任等の教員でも可。

※誓約書における保証人は、両親等の親族を指します。

※申請書・契約書は直接 NipCA オフィスに提出することも可能です。

申請書類：<https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/info/9164>

応募期限：令和5年11月27日（月）午前10時

（希望者多数の場合は、書類審査で決定する）

申請書の提出先：

Email: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp

14.結果通知について

12月1日（金）までに、メールにてご連絡します。

15.問い合わせ先

日本財団「中央アジア・日本人材育成プロジェクト」担当事務室／共同研究棟A203号

電話：029-853-4251 / Email: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp

担当：徳田 *対応時間：9時～17時

16.語学研修担当責任者

臼山 利信 人文社会系教授

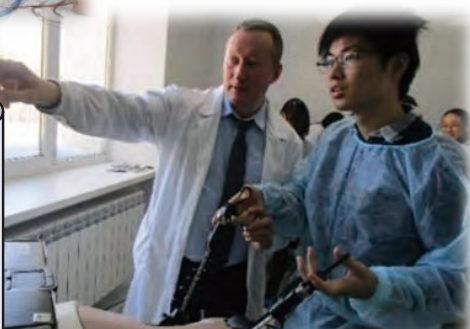
山本 祐規子 人文社会系准教授

令和5年度



海外医療視察研修 (カザフスタン)

筑波大学ではロシア語圏諸国にある医科大学と交流協定を締結しています。
本年度は医学群の学類生を対象にした「海外医療視察研修」をカザフスタンで実施します。



カザフスタン（アルマトイ、アスタナ）の医科大学や医療機関、研究機関などを訪問し、訪問先の医療制度・言語・文化・社会への理解を深め、将来のキャリア形成に役立てることを目的とします。 ※ 授業内容はシラバスを参照

研修日程： 令和6年3月10日（日）～19日（火）（移動日を含める）

視察先（予定）： アルファラビ・カザフ国立大学医学部／薬学部、アスフェンディヤーロフ・カザフ国立医科大学、アスタナ医科大学、リウマチ病院など診療現場や薬局 他

対象者： 医学類、看護学類、医療科学類の1年生～3年生

募集人数： 10名（はばたけ支援枠10名）

費用： 25万円程度（航空券・現地移動費・食費・宿泊費他。為替等により変動）

支援： はばたけ対象プログラム ※成績優秀者には上限10万円を支給

単位： 医学類・看護学類「海外プロジェクト概論（ロシア語圏）」（1単位）
医療科学類「国際生命医科学研修」（1単位）

応募方法： 筑波大学「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト」（NipCA）
HPから申請書をダウンロード、必要事項を記入の上、**医学学群教務にメール**で応募。

応募期限：

12月8日（金）



▼問合せ、申請書送付先▼

医学学群教務

Email : igaku-kyoumu@un.tsukuba.ac.jp

▼NipCAプロジェクト▼

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

Web : <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>

▼申請書DL▼



海外医療視察研修（カザフスタン）

NipCA プロジェクトでは、医学群の学群生を対象にカザフスタン(アルマトイ、アスタナ)での「海外医療視察研修」を3月に実施します。

研修の目的：

筑波大学ではロシア語圏諸国（ロシア、ベラルーシ、カザフスタン）にある5つの医科大学と交流協定を締結しています。コロナ以前は「文部科学省 平成26年度 大学の世界展開力強化事業（ロシア）」の一環として、「海外医療視察研修」「海外医療実務研修」を実施しました。「海外医療視察研修」では例年ロシアやカザフスタンの協定大学・医療施設を訪問してきましたが、今年度（令和5年度）は「世界展開力強化事業」の後継事業として始動した筑波大学 NipCA プロジェクトの枠組みで、医学群の学類生を対象にカザフスタンでの視察研修を実施します。

同プロジェクトは、日本財団、日本中央アジア友好協会、筑波大学の三者が協力・連携し、中央アジア地域の「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals」（SDGs）の達成と当該地域社会の課題解決に貢献できる人材を育成することを目的としています。SDGsの取り組みにおいては、17の達成目標の1つに「保健」が含まれており、医療・看護の分野の協力が不可欠なものになっています。

また昨今ロシア語圏諸国では世界的な潮流を背景に、最先端の医療技術や質の高い医療を求めた海外への「医療ツーリズム」も盛んになっています。日本の医療の国際化とともに筑波大学の果たす役割もますます高まっていくことでしょう。

今回の研修は、カザフスタン（ヌルスルタン、アルマトイ）の医科大学や医療機関、研究機関等を訪問し、訪問先の言語・文化・社会・医療制度への理解を深め、将来のキャリア形成に役立てることを目的に実施します。

研修日程：令和6年3月10日（日）～3月19日（火） 帰着3月20日（水）

研修国：カザフスタン（アルマトイ、アスタナ予定）

対象者：医学類、看護学類、医療科学類の学群生

募集人数：10名（はばたけ支援枠10名）

単 位：医学類・看護学類「海外プロジェクト概論（ロシア語圏）」（1単位）

医療科学類「国際生命医科学研修※」（1単位）

主な研修先（予定）：

- ・カザフ国立大学（および同大学関係医療施設）、カザフ国立医科大学、リウマチ病院等の診療現場および薬局 等

研修内容（予定）：

- ・交流協定締結大学の視察、専門家による講義の受講および同大学の学生と双方の医療分野における課題等について発表・討論を行います。

※ 学生本人が担当教員（森川一也先生）に自己申請する必要があります。

- ・現地の日本国大使館を表敬訪問し、カザフスタンの医療事情等について講義を受けます。
- ・カザフスタンの病院、研究所、医療機関等を訪問し、両国の医療事情について知見を得ます。
- ・帰国後には帰国報告会を実施します。

費用：25 万円程度（航空券、研修先での移動費・食費・宿泊費など、為替等により変動）

支援：成績優秀者には「はばたけ！筑大生」10 万円が支給されます。

☆奨学金の受給を受けるには、別途申請手続きが必要です。

応募資格および条件：

- ・原則として、日本国籍を有する者
 - ・原則として、1～3 年次学群生
 - ・英語でのコミュニケーションが可能な者（ロシア語運用能力は問わない）
 - ・渡航期間中に有効なパスポートを所有する者（あるいは 12 月中に取得できる者）
 - ・渡航・滞在中の事件や事故、災害に備え、「海外渡航届出システム」への登録および、「海外安全危機管理システム（OSSMA）」および海外旅行保険への加入ができる者
 - ・保護者および指導教員（クラス担任）の承認を得た上で、誓約書の提出ができる者
 - ・本プログラムの目的や活動内容を十分理解し、それに沿った活動ができる者
- ※事前研修への参加および準備（交流会での発表資料作成等）、報告書の提出および報告会への参加を含みます。

応募方法：筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」ホームページから申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、**医学学群教務にメールでお申し込みください。**

件名：「2023_海外医療視察研修申込み_[〇〇群 氏名]」

応募期限：令和 5 年 12 月 8 日（金）16 時（希望者多数の場合は、選抜を行います）

結果通知：令和 5 年 12 月 15 日（金）までにメールでご連絡します。

申請書ダウンロード先：

URL: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/info/9234>

筑波大学「日本財団 中央アジア・日本人材育成プロジェクト（NipCA）」

事務室／共同研究棟 A203 号

電話：029-853-4251

E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp

【問合せ先】

医学学群教務

Email: igaku-kyoumu@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学

2023年度 派遣学生による留学報告会(カザフスタン、キルギス) 報告書

発行年月日 2025 年 1 月 31 日

監 修 臼山利信

編集・校正 徳田由佳子（主担当）、大崎果歩、大竹豊

表紙(写真) 角濱さくら、遠藤拓馬

発 行 者 臼山利信

発 行 所 筑波大学

茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1

TEL: 029-853-4251

E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp

Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>

印刷・製本 メディア情報株式会社



筑波大学「日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト (NipCA)」

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学

Tel. 029-853-4251

E-mail: info@genis.jinsha.tsukuba.ac.jp

Web: <https://centralasia.jinsha.tsukuba.ac.jp/>

ISBN 978-4-910114-58-3